



第4期瀬谷区地域福祉保健計画(令和3~7年度)

暮らしやすいまちづくりの計画



第4期瀬谷区地域福祉保健計画の策定にあたって

第4期瀬谷区地域福祉保健計画が完成しました。新しい第4期計画では、第3期計画の取組を継続しつつさらに充実・発展させていくこと、また、基本目標を実現するために大切なこととして「こども」というキーワードを入れ、地域で暮らす誰もが対象であることを表現したいといったご意見を取り入れて策定することができました。

今回の第4期は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた初めての計画となりました。策定までのスケジュールの見直しや、これまでのように顔を合わせての議論も難しくなるなかで、関係団体や地域のみなさまも大変苦慮されたことと存じます。「コロナ禍で実施が難しい活動」があるなかで、ICTの活用などの工夫により「コロナ禍でも可能な活動」を検討していただくなど、色々なご意見をいただくことができましたのも、ひとえに策定委員のみなさまをはじめ、関係団体や地域のみなさまの熱意とご尽力によるものです。計画策定に関わられた全ての方々に、心より感謝申し上げます。

瀬谷区の地域福祉保健計画は、お互いに支えあうことで、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らすことのできる地域社会を実現するための計画です。ひとりでも多くの区民のみなさまにしっかりとその趣旨をお伝えできるように、計画の周知にあたっては、イラストを効果的に活用して読みやすくするなどの工夫もいたしました。

引き続き、区民のみなさまや関係機関のみなさまと連携をし、基本理念「みんなでつくる みんなのしあわせ」の実現に向け取り組んでまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

瀬谷区長 植木 八千代



このたび、第4期瀬谷区地域福祉保健計画が策定されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、本計画の策定スケジュールは変更を余儀なくされ、当初の予定から更に10か月の期間を要することとなりました。

この間、地域福祉活動の状況は一変し、これまで通りの取組が出来なくなった方々も多くおられます。それでも多くの活動が、迷いや不安を抱えつつも手探りで継続・再開されています。互いを思いやり、つながりを大切に活動なさってきた皆様の強い想いに改めて敬意を表します。

第3期計画までの取組を継承しつつ、「暮らしやすいまちづくり」と地域福祉の更なる推進に区役所・地域ケアプラザと一体となって取り組んでまいりますので、区民の皆様や関係各位のより一層のご理解とご協力を賜りたく存じます。

最後に、本計画の策定にあたり多大なご尽力をいただいた第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員の皆様をはじめ、団体ヒアリング、地区懇談会、並びにパブリックコメント等を通じて貴重なご意見・ご提案をいただきました多くの区民や関係団体の皆様に、心よりお礼申し上げます。

瀬谷区社会福祉協議会会長 福田 愛一郎



目次

1 第4期瀬谷区地域福祉保健計画	1
(1)暮らしやすいまちづくりの計画 全体像	1
(2)基本理念	2
(3)副題(サブタイトル)	2
(4)基本目標	2
(5)基本目標を実現するために大切なこと	2
(6)瀬谷区地域福祉保健計画の構成	3
2 基本目標	4
基本目標I “おたがいさま”で支え合う地域づくり	5
基本目標II 健康でいきいきと暮らせる地域づくり	7
基本目標III 誰もが活躍できる地域づくり	9
3 基本目標を実現するために大切なこと	11
① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり	12
② 健やかにこどもが育つ環境づくり	13
③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり	14
④ 連携を深めつながりを強化するネットワークづくり	15
⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり	16
4 地区別計画	17
12地区の地区別計画	19
5 全域計画	43
(1)区役所	43
(2)区社会福祉協議会	45
(3)地域ケアプラザ	46
6 地域福祉保健計画	47
(1)地域福祉保健計画とは	47
(2)地域福祉保健計画策定の意義	47
(3)瀬谷区地域福祉保健計画	47
7 計画の推進	49
(1)5か年の瀬谷区地域福祉保健計画の進め方のイメージ	49
(2)推進のための主な懇談会等	49
(3)地区別計画の推進について	50
(4)全域計画の推進について	51
8 策定のプロセス	52
資料編(瀬谷区の状況)	60
第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員からのコメント	65

1 第4期瀬谷区地域福祉保健計画

(1) 暮らしやすいまちづくりの計画 全体像

第4期瀬谷区地域福祉保健計画(令和3～7年度) 暮らしやすいまちづくりの計画



基本目標を
実現するために
大切なこと

- ①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ②健やかに子どもが育つ環境づくり
- ③幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり
- ④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

(2) 基本理念

みんなで作る みんなのしあわせ

瀬谷区では第1期から、

♡ 一人ひとりの個性や人間性を大切にします

♡ 一人ひとりが互いに思いやり、地域のきずなを大切にします

♡ 人と人とのあたたかい関係を大切にします

という考え方を念頭に、「みんなで作る みんなのしあわせ」を基本理念と定めて取り組んできました。

第4期もこの基本理念を継続し、瀬谷区に暮らしているすべての人にとって、しあわせな地域をつくるために、区民、団体、行政が連携し、**みんなで取組を進めていきましょう。**

(3) 副題(サブタイトル)

暮らしやすいまちづくりの計画

瀬谷区では、地域福祉保健計画を分かりやすい言葉で表現できるように、第3期より副題(サブタイトル)をつけています。

第4期もこの副題を継続し、地域の様々な課題を、支え合いや助け合いなどの取組で解決し、区民みんなで「暮らしやすいまちづくり」を進めていきましょう。

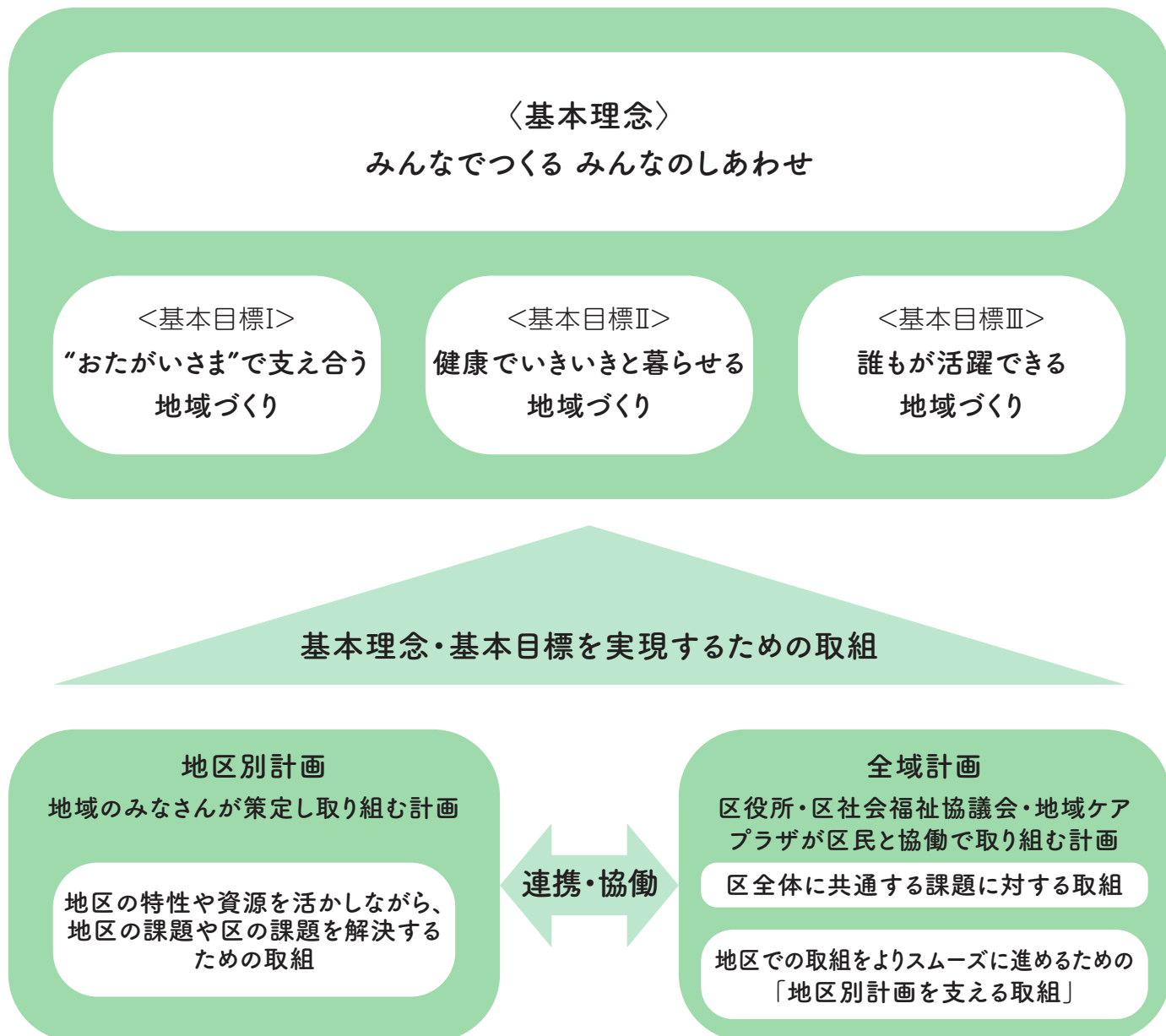
(4) 基本目標

暮らしやすいまちづくりを進めるため、区全体の共通目標として3つの基本目標を立てました。瀬谷区で暮らしているみんなで取組を進めていきましょう。

(5) 基本目標を実現するために大切なこと

基本目標を実現するために大切にしたい考え方を、5つの「大切なこと」としてまとめました。これらの大切なことをみんなで意識して取り組みましょう。

(6) 瀬谷区地域福祉保健計画の構成



瀬谷区地域福祉保健計画は、地域の課題に取り組む「地区別計画」と、区全体で共通する課題に取り組む「全域計画」で構成される計画です。

地区別計画と全域計画が相互に連携・協働して取組を進めることができるよう、第3期地域福祉保健計画からは、基本理念と基本目標を共有しています。

地区別計画

12地区連合町内会自治会エリアごとに策定し、推進する計画です。地区別計画には、福祉保健分野に限らず「暮らしやすいまちづくり」を進めるために地域で取り組む活動を広く盛り込んでいます。計画の策定・推進にあたっては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザをメンバーとした「地区支援チーム」が支援します。

全域計画

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となって取り組む計画です。基本理念、基本目標の実現に向けて、各地区別計画の取組を支援し、よりスムーズに進めるため、主に区全体に共通する課題への取組の計画として位置づけています。

2 基本目標

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり



瀬谷区マスコットキャラクター
このは

第3期までに様々な取組が進められてきたけれど、第4期の基本目標はどんなところがポイントになっているのかしら？

次のページからは、基本目標ごとに大切にしたいキーワード、取組事例などが具体的に書かれているよ。さっそく見てみよう！



瀬谷区マスコットキャラクター
せやまる

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

見守り、支え合いは、居場所づくりや交流の取組によって大きく前進してきました。第4期計画では、認知症の人、障害のある人、生活に困っている人等、様々な人が地域で生活していることをみんなが気づき、支える側・支えられる側を分けることなく、孤立している人がいない、みんなで支え合う“おたがいさま”の地域を目指しましょう。

みんなが気づき

虐待、貧困、8050問題*…。地域には、様々な困りごとを抱えた人もいて、みんなで考えるべき課題があります。まずは、一人ひとりが、地域の今ある状況や課題に気づき、相手の立場になって理解しようとするのが大切です。

日々の暮らしの中で、また地域のサロンや配食活動等を通して見守りを進めていきましょう。そして、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、ボランティア、地域ケアプラザ、施設、学校、企業等との連携を通じて、地域で“気づきの輪”を広げていくことが大切です。

※8050問題…80代の親が50代のこどもの生活を支えるという問題



支える側・支えられる側を分けることなく “おたがいさま”

年齢、病気やけが、出産や育児などによって、誰もが支援を必要とする状況になり得ます。

しかし、支援を必要としていた人でも状況に応じてできることがあり、それを生かすことで支援する立場にもなれます。

困っている人がいたら気にかけて、声をかけ、時には自分が助けてもらい、みんなが助け合いの気持ちを大切に支え合いの輪を作りましょう。そして、困っている人が声をあげやすい地域をつくりましょう。



〈おたがいさま〉

世代や立場を越えてつながり、支え合いの輪をつくりましょう。

1

最近は体力が落ちて、
重たいものを持って歩くのは大変で…。

でも、重たいものは、
お隣さんが買い物ついでに
買ってきてくれて助かっています。



これから買い物に行く
けど、何か一緒に買っ
てくるものある？



2 数日後…



なんか風邪を
ひいちゃったみたい…。

まあ…
それは、大変。



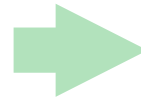
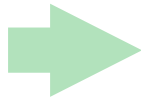
3

あなたが買ってしてくれ
たお野菜で作ったわ。
栄養つけて早く治してね。

わあ、うれしい!
助かります!



顔の見える関係づくり



「挨拶」「声掛け」等を通じて
「顔の見える関係」づくりを進
めましょう。



「顔の見える関係」を築け
たら、日頃からご近所の人
を見守りましょう。

いつもと様子が違うこと(異変)
に気づいた時には相談機関等に
連絡・相談しましょう。

顔見知りになっていると、
災害時もスムーズに助け合えるね。



みんなで取り組む防災訓練

小学校の授業参観日に合わせて防災訓練を
実施し、こどもたちや保護者みんなで参加が
できるように工夫している地区があるよ。



心肺蘇生法について学ぶ小学生



中学生と取り組む救急搬送訓練

中学生も重要な担い手となって、訓練に参加して
いる地区があるよ。
世代を超えてみんなで訓練を行うことで、地域の防
災力も向上し自助・共助の意識が高まりそうだね!

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

これまでの健康づくりの取組によって、健康意識の向上や地域活動など人と人とのつながりも広がってきました。引き続き第4期計画でも、誰もが自分らしくいきいきと過ごし、年齢や障害の有無に関係なく、お互いが理解し合い、元気で生きがいを持って生活することを目指しましょう。

年齢や障害の有無に関係なく

ここでいう健康とは、年齢や病気、障害の有無によるものではなく、自分が健康であると感じられるような心の充実や社会とのつながりを含めた、幸福感や満足感のことを指しています。それぞれの状態に応じた自分自身の健康づくりが大切です。また、こどもや若い世代へも健康づくりの働きかけを進めていきましょう。



元気で生きがい

誰もが、それぞれにできることや好きなこと、得意なことがあります。その人らしく、健康で生活できるよう取り組んでいくことが大切です。

また、地域活動への参加は健康に良い効果があると言われています。地域での仲間づくりやつながりづくりを通じて、健康づくりも進めていきましょう。



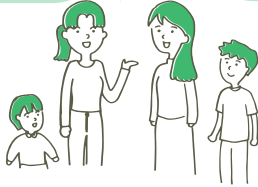
〈いきいき〉

仲間を増やし、みんなで元気にならしましょう。

1

みんなで集まる場
をつくりたいね。

近所のみなさん
と一緒にでき
ないかしら。



2

カローリングで
体を動かして
楽しもうか!



絵本の読み聞か
せは得意よ。



3

取組をはじめたら

お友達と遊ぶ
機会が増えて
良かったわ。

こどもも夜早く
寝てよく食べる
ようになったわ。

生活にめりはり
ができて体調が
よくなったわ。



4

地域活動をしていない人に
比べボランティア活動をして
いる人は、4年後も元
気な生活を続けていた人
が**3.9倍***多いそうです。

趣味やサークル活動をしている人では
1.5倍*多いというデータもあるんです。



※出典:東京都健康長寿医療センター研究所

みんなで取り組む健康づくり

瀬谷区で取り組まれている事例を紹介します。

カローリング交流会

障害者のグループホーム入居者や放課後キッズクラブが参加。地域住民とスポーツを通じて交流しています。



介護予防体操

地域の自治会館などを利用し、誰でも気軽に参加できます。



コミュニティカフェ

地域の方のお宅や自治会館等を会場とし、みなさんの集いの場となっています。



ポールウォーキング

2本のポールを利用し、景色を楽しみながら川沿いの遊歩道をウォーキングしています。



農福連携事業

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。



健康講座

フレイル[※]予防、感染症予防、食育等地域住民の関心ごとに合わせて企画しています。



※フレイル…高齢期になり心身の機能や活力が衰え、虚弱になった状態

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

これまでの取組を通し、子育て支援、高齢・多世代交流など地域の身近な参加の場が広がってきました。新しい生活様式も広がり、ICT※の利用なども含め、これからは、これまで参加の少なかった若い人や男性等にも地域を知ってもらう“きっかけ作り”が大切です。そして、地域で暮らす誰もが、それぞれの立場で活躍できることを目指しましょう。

※ICT…通信技術を活用したコミュニケーション(メール・テレビ電話・オンライン会議等)

身近な

住み慣れた自分の地域で気軽に楽しめる活動が増えると、地域のつながりもできます。日々の暮らしの中で様々な人が地域の活動に触れ、その楽しさや大切さを感じられることが大切です。



活躍できる

ここでいう活躍とは、ある特定の人をめざましい活動を指すものではありません。一人ひとりの個性や存在そのものがいきいきとするような、役割や居場所があるということです。年齢や性別に関わらず、人それぞれの「できる」を大切にしましょう。



〈活躍・居場所〉

それぞれの「できる」を大切にしましょう。

1 母は、最近忘れ物が多く、受診したところ認知症と診断されました。

？ ？ ？



Aさん

2 サロンのボランティアをやめてもらった方が良いのかなって…。続けられるか不安で…。



家族

3 Aさんには、ぜひ続けて欲しいわ。一緒に見守っていきましょう!



サロン仲間

ありがとうございます。

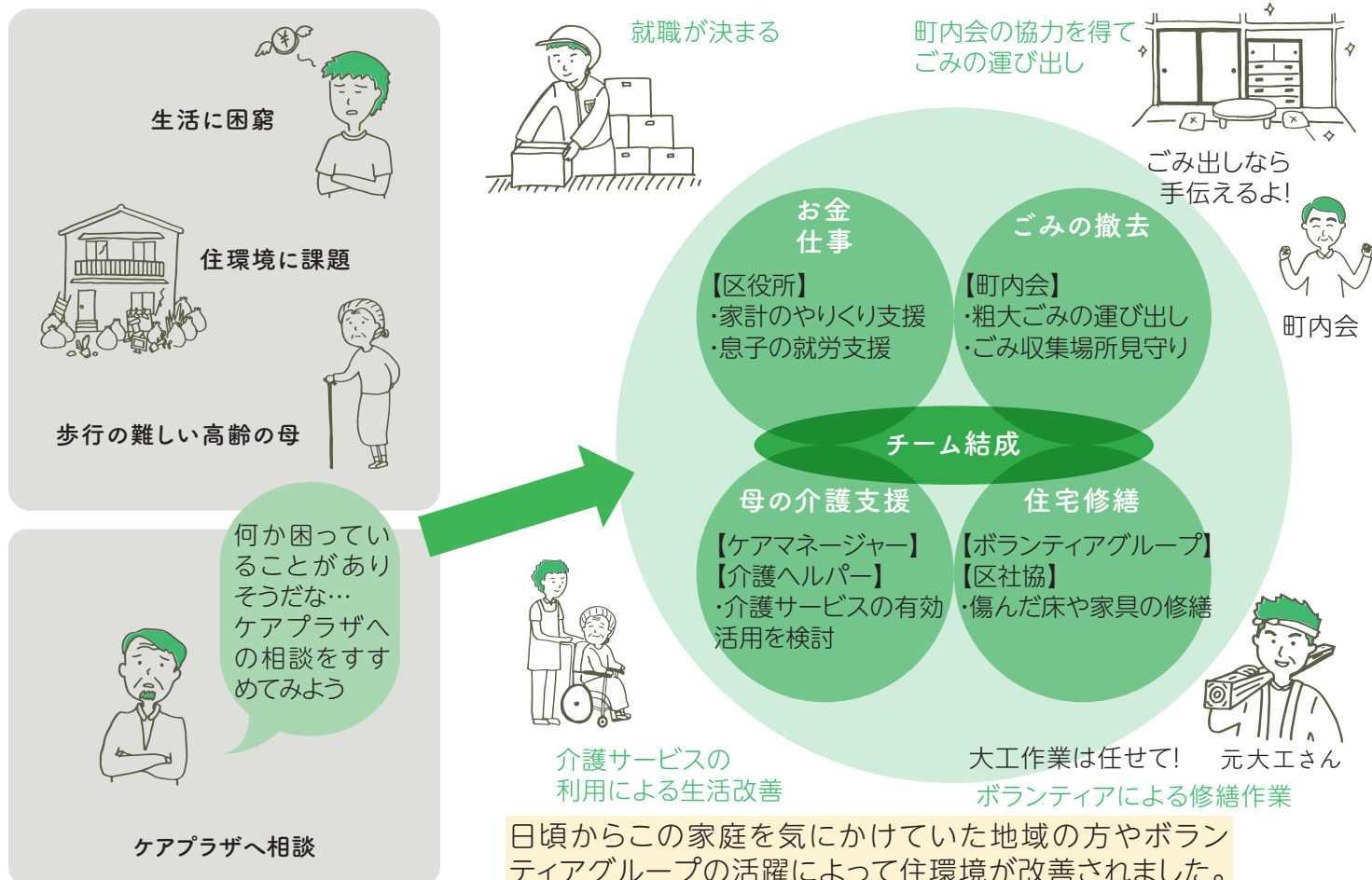
4 さすがAさん! やっぱり編み物お上手ね。



時に忘れてしまうことやこれまでと同じようにできないこともあるけど、楽しそうに過ごしています。

困窮世帯を支えた地域の力

支援を必要とする人に自分達は何ができるかを考え、地域・関係機関がチームで取り組んだ事例です。



3 基本目標を実現するために大切なこと

第4期計画の「3つの基本目標」を実現するために大切なことを紹介します。

- ① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ② 健やかにこどもが育つ環境づくり
- ③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり
- ④ 連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

『一人ひとりの個性を尊重する意識づくり』を大切にしていくと
『“おたがいさま”で支え合う地域づくり』につながるって
具体的にはどんな場面や活動なんだろう？



5つの大切なことを基本目標ごとに事例を通して見ていきましょう。
掲載されている事例以外にも、どのようなことがあるかみんなで考えてみましょう。

① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり

子どもから大人まで、認知症や障害の有無、国籍や性別に関わらず、一人ひとりを大切に多様性を認め合いましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり ～みんなちがって、当たり前～



隣に引っ越してきた
〇〇です。
実はうちの息子には
障害があって…。

あら、そうなの。
いろんな子がいて当たり前だから
ねー。
何か困ったことがあったら声をかけ
合いましょうね。



障害の有無に関係なく、地域のなかで声をかけてくれる人がいるととても安心します。子どもの成長を一緒に喜んでくれたり、見守ってくれるとうれしいです。

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり ～認知症になってもいきいきと～



最近友人が認知症の症状が出てきて
家の中に閉じこもっていて心配なんだ。

今度、コミュニティカフェにお誘いしま
しょうよ。誰かとお話しながら、お茶を
飲むだけでも、気分がちがうわよ。



基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり ～その人の強みや特技を生かして～



コロナ禍でなかなか集まれないから、オンライン会議を
したいけど、やり方がわからないわ。

パソコンやスマホの使い方なら、みんなに
教えられるので、声をかけてください！



サロンでもオンラインが使えたら、外出が難しい人も
自宅から参加できるね。



② 健やかにこどもが育つ環境づくり

こどもがのびのびと安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域でこどもを育てるという風土をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～笑顔広がるこども食堂～

今日は、近所のみんなと一緒に
自治会館でごはんが食べられる日。楽しみだな。



おじさん！ご飯食べ終わったら、けん玉教えてね！

いいぞ！みんなでカルタもやろう！



普段は、一人暮らしで静かな食卓だけど、この日は、
こどもたちのたくさんの笑顔が見られて、元気がもらえるよ。

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～こどもの遊び場プレイパーク～

今度の日曜日、せやまる公園でやって
いるプレイパーク*に一緒に行こうよ！



木登りとか泥んこ遊びとか自由に思いっきりあそべるよっ。
プレイリーダー*のお兄さんやお姉さんもいて楽しいよ♪

※プレイパーク…こどもたちが自
分の力で自由に遊ぶ「遊び場」



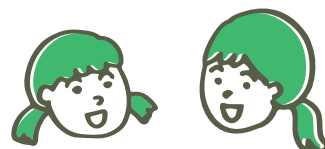
※プレイリーダー…こどもが
いきいきと遊べる環境を作
り、遊びを引き出す人

楽しそうだね！
僕も、遊びに行きたくなってきたよ。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～こどもと一緒に取り組む夏祭り～

今年の夏祭りで模擬店のお手伝いをしてくれる
子はいるかな？



私は、かき氷！僕は、あてくじ♡
私は、ボールすくいを手伝います。



毎年、夏祭りでは、こどもたちが大活躍しています。

③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり

誰もが社会参加できる居場所を見つけられるような機会をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～国籍が違って、仲間～



日本に来たばかりで、友達もいない…。
これは、どんな所なんだろう？私も行っていいのかな？
ちょっと、連絡してみよう！

あの、私も、コミュニティサロンに行ってもいいですか？

是非、どうぞ！大歓迎よ！



その後、私は、このサロンのスタッフとなり、自国の料理を皆にふるまったり、得意の英語を教えたりしています。このサロンで、みんなと過ごす時間がとても楽しみです。

● 回覧板 ●
団地住民誰でも集える
コミュニティサロン担い手募集中!!
☎ 045-000-0000

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～みんなで健康 ラジオ体操～



私たちの地区には、こどもから高齢者まで、たくさんの方が毎朝集うラジオ体操の会があります！

スタンプカードのポイントがたまると商店街のお店で使えて、こどもたちも楽しみにしています。一人より、みんなで行う体操は、心も身体も健康になると思います。ラジオ体操が、私たちの日課になっています。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～ふるさとは心の居場所～



私のまちには、お祭り、運動会、もちつき大会…楽しいイベントがたくさんあります。地域のおじさんやおばさんが登下校の時にこどもたちを笑顔で見守ってくれます。みんなで集える公園やケアプラザ、自治会館もあります。そして、みんなが自分たちのまちを良くするために何ができるのかを考えています。たくさんの人のやさしさや笑顔があふれるこのまちが、私の安心できる居場所です。



4

連携を深めつながりを強化するネットワークづくり

支援機関や団体、学校、企業と、地域住民で協働し、情報の共有や発信、地域資源の活用などネットワークづくりを進めましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～地域で取り組む防災訓練～



町内会長

今度の防災訓練は、障害者施設と合同で実施したいと思って、施設を利用している方にも参加して欲しいのですが。

いざという時に助け合いができるように、日頃のおつき合いが大切ですね！是非お願いします。



施設職員

～施設と合同開催の防災訓練の後～



手助けしたいと思っていただけ、一緒に荷物を運び、一生懸命訓練に取り組む姿を見て、心強く感じました。

こちら側も部屋の開放や物品の提供など災害時に協力できることを考える良い機会になりました。



基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～医療機関も地域で活躍！～



町内会役員

自治会館を使って健康講座をしたいけど、どんな内容が良いかな。

飲み忘れで、きちんと服薬できていない高齢者がいるから、薬のことを教えてくれる人はいないかしら。



民生委員



それなら、薬剤師さんが出張してくれるって、前の会議で聞いたぞ。早速相談してみよう。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～企業も地域で活躍！～



この辺りは店がなくて、困っていたけど、毎週移動販売の車が来てくれて、とても助かっているわ。

やっぱり、自分で見て買いたいし、選ぶのって楽しいわよね。



移動販売員

店にいるだけだとわからないことも、地域で話を聞くと、もっと自分たちが役立てることが見つけられそうだな。

⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

本当に困っている人が孤立せず、支援につながられるよう、誰もが住みやすい社会をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり ～フードドライブで有効活用～



まだ食べられるのに…捨てるのもったいなくて…。何か良い方法はないかしら。

フードドライブ活動をご存知ですか？
家庭で使いきれない食品などを、必要としている人へ届ける活動です。
こども食堂みたいな、地域の支え合い活動にも届けられているんですよ。



社会福祉協議会
職員



使い切れないものを持っている人と、それを必要としている人をつなぐしくみですね！この取組が地域で広がればみんなで助け合えますね！

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり ～初めての育児を応援～



もうすぐ赤ちゃんが産まれます。
でも、引っ越してきたばかりで、近所のことがよく分からなくて…。

地域の子育てサロンに行ってみたら？
妊娠中から色々相談もできるし、知り合いも増えますよ。



主任児童委員



近くに知り合いがいなくて、初めての子育てになるので心細かったんです。是非行ってみます！

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり ～仕事探しのお手伝い～



仕事がなかなか見つからなくて…。
これからどうすれば良いか不安で…。

区役所で就労支援が受けられるの知ってる？
履歴書の書き方や面接のアドバイスも受けられるわ。



知らなかったよ、それは心強いね！
すぐに相談してみるね！！

4 地区別計画

地区別計画は、地区のみなさんが、その地区の課題について検討し、地区の特性や資源を活かしながら、課題解決のために策定・推進する行動計画です。12地区連合町内会自治会ごとに計画を策定・推進しています。

①
中屋敷地域ケアプラザ
 ☎ 303-8100

瀬谷第一地区 ▶P25
 本郷地区 ▶P27
 瀬谷北部地区 ▶P29
 細谷戸地区 ▶P33

③
下瀬谷地域ケアプラザ
 ☎ 304-1291

瀬谷第二地区 ▶P31
 南瀬谷地区 ▶P37

②
ニツ橋第二地域ケアプラザ
 ☎ 360-7855

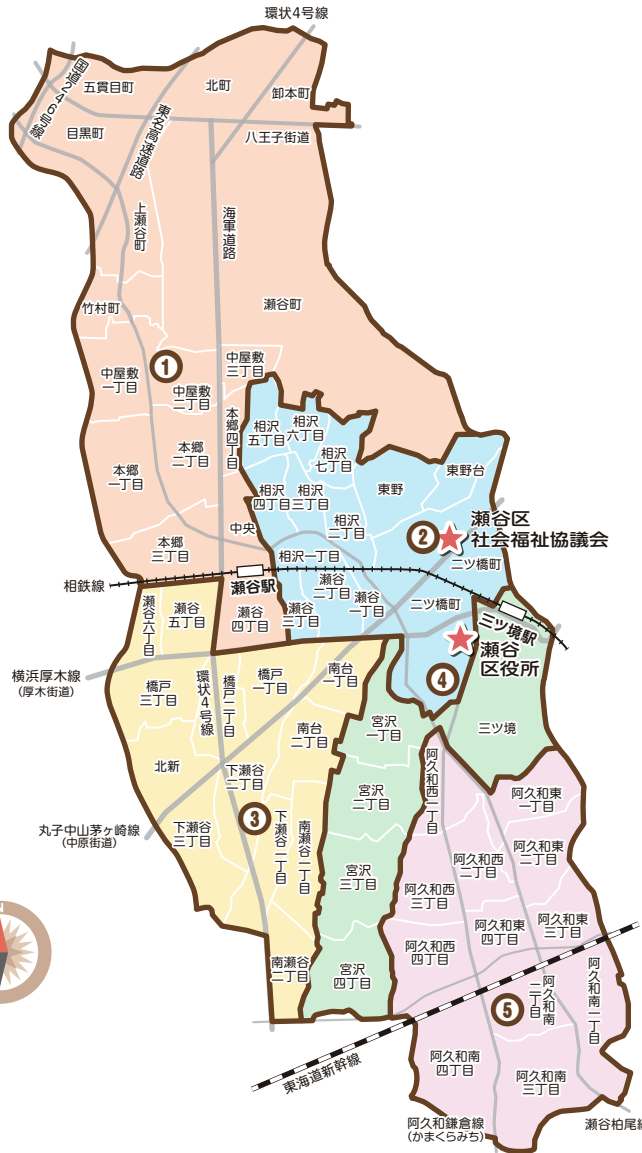
瀬谷第四地区 ▶P35
 相沢地区 ▶P41

④
ニツ橋地域ケアプラザ
 ☎ 361-9807

三ツ境地区 ▶P23
 宮沢地区 ▶P39

⑤
阿久和地域ケアプラザ
 ☎ 365-9892

阿久和北部地区 ▶P19
 阿久和南部地区 ▶P21



地域ケアプラザや社会福祉協議会では、地域別計画の取組を支援をしているよ。地区の取組についての相談等あれば、担当エリアのケアプラザや社会福祉協議会まで問い合わせせてね!

瀬谷区では、第1期(平成18年度~)から、12ある地区連合町内会自治会を単位として、地区のみなさん自らが地区別計画を立てて、取り組んできたよ。



地域の様々な取組～暮らしやすいまちづくりのイメージ～

様々な取組

防災訓練
広報活動 啓発活動 防犯パトロール 防犯グッズ配布
ボランティア活動 健康体操 ウォーキング 美化活動
ラジオ体操 サロン コミュニティカフェ レクリエーション大会
あいさつ 見守り活動 敬老会
食事会 配食サービス 運動会 お祭り 文化、スポーツ活動
プレイパーク 中・高生ボランティア こども会 学習支援 こども食堂
登下校の見守り PTA活動

取組から生まれる 様々な効果

相互理解
交流 地域への愛着
見守り合い 顔の見える関係づくり 参加者の広がり
健康づくり 助け合い・支え合い 問題の早期発見

今すでに行っている活動が
地域福祉保健計画の取組
に含まれているんだね。



困りごとの解決へ

介護予防 孤独死の予防 生活困窮者の支援
介護者の負担軽減 子育て不安の軽減
健康でいきいき 災害時の助け合い 虐待の防止
自殺の防止 いじめの防止 まちの美化 犯罪の防止 交通安全
振り込め詐欺の防止

取組を通して生まれた“つな
がり”によってみんなの生活
が支えられているんだね!



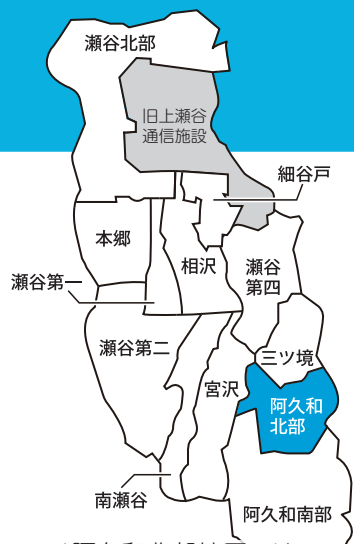
計画が目指すもの

暮らしやすいまちづくり

日々の様々な取組が、暮
らしやすいまちづくりに
“つながって”いるんだね!



阿久和北部地区



1 地区の概況

- ◆ 瀬谷区の南東部にある阿久和エリアのうち北側の部分。11自治会で構成されている。
- ◆ 単身世帯の比率が区平均と比べて少なく、夫婦とこどもの世帯が多い。一戸建て住宅の多い地域で、集合住宅には一人暮らし高齢者や高齢者世帯が多く住んでいる。10年以上居住している方が区平均よりやや高くなっている。
- ◆ 地区内には長屋門公園や見守り合い広場(向原第二公園)があり、住民が参加しやすいイベントが多く行われている。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆ 地域コミュニティ形成のための事業
 - ・「おやじの広場」を立ち上げ〈第1期〉:定年後の男性の地域での活動の場となる。
 - ・サロン「喫茶だんらん」を毎月開催〈第1期〉:子どもからお年寄りまでの交流の場となる。
 - ・「みまもりの家」を住民の手で建設〈第2期〉:地域コミュニティの拠点として、日々の見守り合いや定期的な交流イベントを開催。
- ◆ 見守りネットワークの体制づくり
 - ・「見守り合いのつどい」〈第1期〉:講演会や自治会・各種団体・福祉施設等の取り組み状況をパネル展示し情報共有を図るほか、模擬店や子ども向けの交流事業を毎年実施。
 - ・「防災研修会」〈第2期〉:各自治会での災害時の見守り体制について発表会を毎年開催し、地区全体での底上げを図っている。
- ◆ 見守りを兼ねた福祉事業の立ち上げ
 - ・「子ども食堂」〈第3期〉:年6回の子ども食堂を見守り合い広場で開催。
 - ・健康増進活動:毎朝の健康体操〈第2期〉や、動機付けのための健康スタンプ事業〈第3期〉を開始。
 - ・買物困難者支援事業〈第3期〉:全戸アンケートを元に、移動販売車を誘致。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆ 「みまもりの家」の更なる活用と運用
- ◆ 各種事業の情報共有と連携、相乗効果
 - ・定着している事業でも、更に拡大できる方法はないか。
 - ・参加者が伸び悩んでいる事業は、いかにして広めて継続していくか。
 - ・複数の関係団体が協力し合うことで、新しい事業ができないか。
 - ・障害者との交流事業は十分か。
 - ・中学生との交流はできているか。
- ◆ 誰もが地域の活動に参加できる環境づくり
 - ・世代が交代しても、各事業の目的などの認識を共有化して活動を持続していけるか。
 - ・高齢化した既存の組織には、なかなか新しい人は入りにくい。
 - ・各世代に最適な情報発信方法のあり方

4 推進母体

阿久和北部見守り合いネットワーク

阿久和北部代表者会議メンバー〔自治会長・地区社協(各種団体会長・各種部会等代表)〕、ボランティアグループ代表、障害者団体代表、小中学校・保育園、阿久和北部地区内福祉施設、阿久和北部地区支援チーム

未来につなげる笑顔あふれるまちづくり

～元気で見守り支え合い安心できる地域をめざして～



〈移動販売事業〉
買い物の場を見守りの場に。



〈子ども食堂〉
子どもたちを地域で見守り育てる。

目標Ⅰ
**ともに支え合う
安心の地域づくり**

- ・移動販売事業、子ども食堂の継続、充実
- ・災害時の見守り体制の充実
- ・地域住民が心の安らぎを持てる居場所の充実

目標Ⅱ
**みんなの健やかな
暮らしをめざして**

- ・健康スタンプを活用した健康事業の拡充
- ・健康意識の向上や生きがいを持った暮らしに役立つ情報の共有や資源の活用
- ・健やかなこどもを育てる地域の風土づくり

目標Ⅲ
**地域の担い手、
未来につなげ**

- ・みまもりの家を活用した趣味のサークル活動
- ・「手を貸してほしいこと」と、「自分はこんなことならできる」のマッチング
- ・小中学生や大人が地域で活躍できる新しい場の創出

1. 対象となるイベントに参加すればポイントが貯まる。自治体独自のルールが適用されます。
2. 100ポイント毎に100円分の買物券と交換できます。この買物券は、阿久和北部の取引の「見守り」の場、などでの利用が、換算の場などで使えます。
3. 本カードは、阿久和北部連合自治会会費で、1台車以上のものに発行され、記名したご本人のみ有効です。イベント開催時にカードを忘れた場合は無効です。
4. 買物券との交換は、長瀬門公園事務所で行います。
問合せ先：045-364-7072（長瀬門公園事務所）

**阿久和北部連合自治会
健康ポイントカード**

自治会 _____
氏名 _____

阿久和北部連合イベントスタンプ					毎日読合わせ・早世体操（ラジオ体操）スタンプ				
阿久和	北部	阿久和	北部	阿久和	北部	阿久和	北部	阿久和	北部
19.04.25	19.05.15	19.04.30	19.07.07	19.08.25	19.08.25	19.08.25	19.08.25	19.08.25	19.08.25
19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07	19.10.07



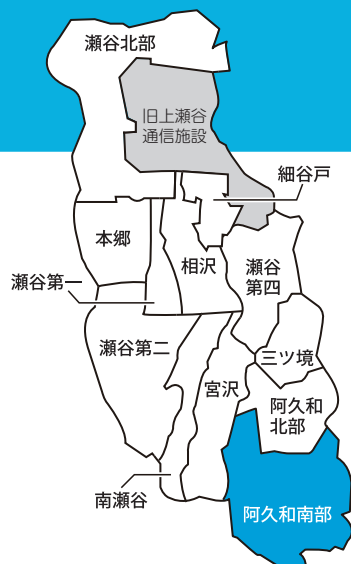
〈大きな傘「みまもりの家」〉
地域コミュニティの拠点として
更なる活用を検討する。



〈健康ポイントカード〉
スタンプがたまると買物券と交換でき、その券は地域のイベントやサロン、移動販売事業で利用できる。



阿久和南部地区



1 地区の概況

- ◆瀬谷区の南端に位置し、畑や牧場、緑豊かな公園が多く泉区と旭区に隣接している。
- ◆約12,000人が住んでいる。高齢化が進んでおり高齢化率が約29%で区内4位と高い。
- ◆各種行事が活発に行われ、人と人とのつながりのあたたかさを実感できる緑豊かな地域。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆従来からあるお祭りやイベントなどを通して高齢者・障がい者支援事業を継続すると共に、子どもの学習応援(ぽかぽか学習クラブ)、放課後の居場所づくり(和!輪!笑!クラブ)などを新規で行った。
- ◆地区内にある単位自治会それぞれの活動・行事を情報共有し、連合内や地区社協、その他の団体との連携について協議した。
- ◆長く活動していた配食サービスが終了したため、阿久和南部地区および北部地区が一体になり高齢者の見守りについて話し合った結果、新たな団体がつくられ、配食の再開が実現した。
- ◆子どもの生活環境における課題に対して、子ども支援対策検討委員会を発足し、検討を重ねた。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆数多くのイベントや活動の継続・維持をすることはもちろん、いかにして拡充させるか。
- ◆様々な活動を、それぞれ個別の団体・個人だけが企画運営するのではなく、横のつながりを持ち継続的に取り組める仕組みづくり。
- ◆多世代交流を推進し、子育て支援や担い手の育成に活かしていきたい。

4 推進母体

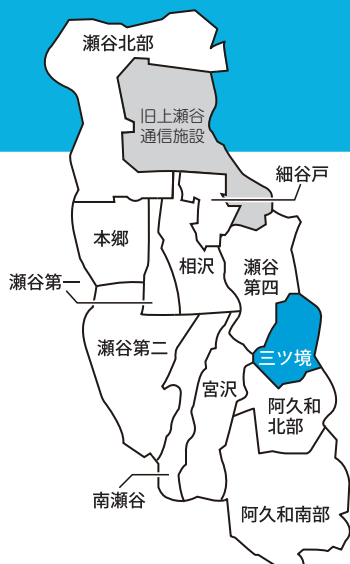
阿久和南部連合自治会/阿久和南部地区社会福祉協議会/阿久和南部地区民生委員児童委員協議会/各委嘱委員等(事務局:南部地福計画策定委員会)

いつまでも住み続けたいふるさとまちづくり

～ みんなでつながろう なんぶ・あくわの ^わ和！^わ輪！^わ笑！～



三ツ境地区



1 地区の概況

- ◆相鉄線三ツ境駅から南へ広がる商業地を含む住宅地域。多少の起伏がある地形である。
- ◆人口は8,890人(15歳未満993人、65歳以上2,399人、世帯数4,287)で瀬谷区の7.2%を占めるが微減傾向にあり、今後も継続して高齢化が進展するものと考えられる。
- ◆自治会加入世帯数は2,690世帯で、加入率は62.7%(令和2年度)。5年前と比較して3.7ポイント減少した。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

第2期まで(~R27年度)

- ◆ふれあいの場づくり
 - ・サロン開設
「ほっと三ツ境」「ゆうゆうサロン富士見台」
 - ・ふれあい昼食会
「このは会」「第2このは会」
 - ・子育て支援「ほんわかサロン」
- ◆安心・安全・見守り支援
 - ・防犯パトロール、防犯ステーション(廃止)
 - ・児童安全見守り会
 - ・高齢者配食「木曜の会」
 - ・見守り・支合いカード、緊急カード、容器
 - ・見守りツール「三ツ境ネットくん」
- ◆推進母体「住みよいまちづくり推進委員会」立上げ、機関紙を発行(A4 4頁 年2回発行)

第3期(H28~R2年度)

- ◆現状把握3アンケートの実施と課題明確化
「自治会行事調査」「諸団体活動・行事アンケート」「自治会規約・役員任期調査」
課題①諸活動が充分認知されず参加者も少ない
課題②少子高齢化の進展と後継者不足の顕在化
- ◆6つの新たな取り組み
 - ①「情報交換会(自治会先進事例および参加諸団体の活動紹介)」の開催
 - ②「三ツ境サポーターズ」の募集による新しい地域活動の場の提供と、高齢世帯支援活動の開始
 - ③「見守り・支え合いカード」の改善と更新
 - ④「障害者理解促進のための勉強会」の開催
 - ⑤「こどもの居場所づくり」活動のスタート
 - ⑥災害時の「無事確認フラッグ」の作成支援

3 第4期計画に向けての課題

- ◆第3期計画で掲げた「みんなで幸せに長生きをする」は、普遍的な究極の目標である。
今までの活動成果を生かし、できることを継続しながら、革新を加えていくことにより、次の3つの課題を中心に今後も積極的に取り組んでいく。
課題① 高齢世帯等の見守り・支え合い活動の質を高める
課題② 自治会や諸団体活動の活性化を図り、地域の活力を高めていく
課題③ 少子高齢化進展の中、地域の活性化を担う次世代後継者の発掘・育成に務める
- ◆従来からのスポーツ推進委員、青少年指導員制度および防災拠点活動に加え、三ツ境サポーターズ制度など、新たな人材の発掘に繋がる仕組みもスタートした。
それらの活動を通じて、「自らの意思で継続して地域活性化のチカラになれる人」を見つけ、積極的に育成していくことに繋げていく。

4 推進母体

三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会

三ツ境地区が抱える様々な課題解決を目的として、連合自治会、地区社協、各種団体が協働する推進組織

究極の目標 みんなで幸せに長生きをするために

高めよう みんなの ご近所チカラ

ご近所チカラ＝遠くの親戚よりご近所さん
“イザ”という時に、寄り添い助け合えるご近所仲間のネットワーク

これからの活動のポイント

これまでの活動成果を生かし、より高みを目指して、常に見直しながらか進めていく



主要推進項目

① 高齢世帯や災害弱者等の見守り活動の充実

- ・「見守り・支え合いカード」により、平常時および発災時における自治会やとなり近所による見守り活動の一層の充実を図る

② 「情報交換会」のより効果的な運用

- ・自治会や諸団体の活動紹介だけでなく、各組織が抱える課題を出し合い解決に向けたヒントを話し合える場として、後継者育成問題や生活環境の整備など、重要なテーマに取り組む

③ 「三ツ境サポーターズ」活動の強化

- ・参加メンバーの拡大と活動のさらなる活性化を推進すると同時に、次世代リーダー候補の発掘と育成を図る

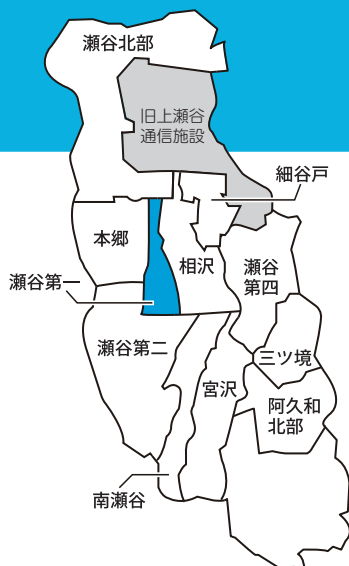
④ 「こどもの居場所づくり」活動の推進

- ・三ツ境小学校と連携を取りながら、広く活動を周知し、こどもの居場所としての活動内容の改善を図る

⑤ 「児童安全見守り会」の新しい推進体制の検討

- ・見守りメンバーの高齢化に歯止めをかけるため、新しい募集・呼びかけ体制を検討する

瀬谷第一地区



1 地区の概況

- ◆現在、瀬谷駅南口再開発が佳境を迎えており、瀬谷区の中でも一番変化の大きい地区の一つとなっている。
- ◆近い将来の上瀬谷通信施設跡地利用が焦点となっている。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆WAT運動(高齢者等の見守り)の創設(第2期～)
- ◆安心キットの普及(第3期～)
- ◆趣味特技アンケートの実施と懇談会の開催(第3期)
- ◆児童のための習字教室、将棋教室の開催(第3期)
- ◆冊子「私の健康法」の発刊(第3期)



子どもの居場所づくり
自由教室



WAT運動

3 第4期計画に向けての課題

- ◆求心力のある計画(目標)を掲げ、多くの地域住民の賛同と協力を得られるようにすること。
- ◆計画(目標)の実現に向けて、みんなの気持ちをまとめた行動プランを作成すること。
- ◆計画(目標)を実現する活動が、同時に担い手を増やし、協力者を必要とする活動となること。
- ◆計画(目標)の実現が地域に浸透し、助け合いや見守りの福祉活動が当たり前の地域になること。

4 推進母体

地区社会福祉協議会役員会とその構成団体となっている連合町内会や地区民児協をはじめとする各団体が推進母体となる。

瀬谷第一地区

私たちの第4期地域福祉保健計画



年代別健康プログラムの作成

健康体操の継続

認知症予防

目標1

私の健康法Ⅱの発行

誰もが健康に
暮らせる地域にしよう

ウォーキング大会の復活

各種健康講座の開催

WAT運動推進

目標2

WAT運動の新しいPR

見守りを通して
支え合う地域にしよう

安心キット普及

各種サロンの拡大

障がい者の理解と交流

子どもの居場所づくり

認知症支援

生活応援隊の設立

目標3

明日の担い手が
育つ地域にしよう

趣味特技を活かした活動展開

趣味特技・地域貢献アンケートの再実施

ボランティアの募集

目標4

上瀬谷跡地活用の要望発信

住民要望が叶えられる
地域にしよう

住民アンケートの実施

地元議員との懇談会

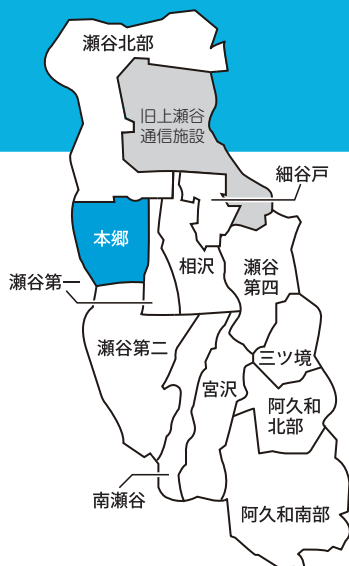
目安箱の設置



幸せの四葉のクローバーが
たくさん育つ地区となろう



本郷地区



1 地区の概況

- ◆瀬谷区の西部に位置し、大和市と隣接。
- ◆住民の高齢化が顕著となる中、15歳未満の子どもの割合は区内平均に比べて高くなっている。
- ◆地区レクリエーション大会、ふれあい文化祭など地域住民間の「顔の見える関係づくり」が進み、まとまりがある地域。
- ◆「凧揚げ大会」、「大門祭り」、「シニアクラブの小学生昔遊びの会」などが開催され、それらを通じて学校との連携が進むなど、伝統的に子どもを大切にする地域。
- ◆水と緑の自然、歴史・文化財、公園・図書館、近隣に地区センターや地域ケアプラザがあるなど、さまざまな地域活動を行うのに恵まれた地域。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆<第1期> ・8自治会中5自治会で集会所ができた。
 - ・サロン・ミニデイが3か所立ち上がった。
 - ・ウォーキングやいきいき体操等の健康づくり活動が活発に行われた。
- ◆<第2期> ・「見守り支え合いの会」や「本郷お助け隊」の活動がスタート。
 - ・「パークで筋トレ&ウォーキング」などの健康づくり活動の活発化。
- ◆<第3期> ・サロンがより身近な場所で開催されるようになった。
 - ・高齢者の見守り活動、防災グッズの配布を進められた。
 - ・「瀬谷本郷公園はらっぱ広場」が完成したことにより、新たな地域の居場所ができた。
 - ・「レインボーウォーキング」や健康講座による健康長寿の里づくりの推進。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆瀬谷本郷公園はらっぱ広場をさらに活用し、子ども同士・親子のふれあいや世代間交流の場として子どもが育ちあう居場所となるようにすること。
- ◆防災グッズの配布を継続し防災意識を高め、災害に強い地域づくりをすすめること。
- ◆コロナ禍を踏まえ、「新たな生活様式」に基づく新たな活動の在り方と関係性づくりに努めること。
- ◆「本郷健康づくり重点5項目」に基づく「健康長寿の里」実現への取り組みを進めること。

重点項目

- ① 特定健診・がん検診の受診率向上と歯科口腔保健の推進を!!
- ② 特定健診・がん検診・歯科検診の結果を生かして生活習慣を見直しましょう!!
- ③ 子どもの頃からの健康づくりの普及啓発で、休養・睡眠・心の健康づくりに力点を!!
- ④ 歩数計を身に着けて、毎日目標を定めてウォーキングをしましょう!!
- ⑤ 栄養・食生活について個人目標を立てましょう!!

4 推進母体

地区連合自治会と地区社会福祉協議会との一体的に推進
各種団体等、地区支援チーム(区役所、区社会福祉協議会、ケアプラザ)、学校(大門小学校、瀬谷中学校、瀬谷養護学校)と連携・協働

第4期本郷地区地域福祉保健計画（令和3年度～令和7年度）

基本目標1

みんなが集い楽しむふれあいの地域づくり

＜気軽に地域の活動に参加できる地域をめざします＞

通年的活動…本郷地区の6サロンの継承発展と交流（共催：地区連合自治会と地区社協、以下「共催」、高齢者の融和と協調の活動（シニアクラブ）、友愛等の活動（友愛活動員）

イベント的活動…敬老福祉大会（共催）、ふれあい文化祭（連合・青少年指導員）カラオケの集い（シニアクラブ）

基本目標2

ともにつながり支え合う安心の地域づくり

＜誰もが安心して暮らし続けられる地域をめざします＞

通年的活動…「顔の見える関係づくり」に向けての活動（共催）、本郷お助け隊のボランティア活動（共催）、一人暮らし高齢者などの見守り活動（民児協・健康長寿の里実現実行委員会）、一人暮らし食事会「あじさい会」（民児協）、悪質商法等啓発活動（消費生活推進員）、安全・防犯活動（女性地域安全委員）

イベント的活動…地域防災拠点訓練（連合）、防災グッズの配布（健康長寿の里実現実行委員会）

基本理念

「みんなでつくる みんなのしあわせ」を基本に、子どもから高齢者までの誰もが尊重され、暮らしやすいまちづくりをすすめよう！

基本目標3

すこやかに育つ力を育む希望の地域づくり

＜未来を担う子どもたちをみんなで大切にできる地域をめざします＞

通年的活動…小・中学生の地域参加・ボランティア活動の促進（共催）、学援隊（連合）、タッチ等子育て支援・相談活動（主任児童委員）、親と子のサロン（いちごクラブ）、非行や犯罪の防止活動（保護司、更生保護女性会）、青少年活動の推進（青少年指導員）発達障害者の理解啓発活動（アントママ）

イベント的活動…社明運動地区集会（共催）、小学生昔遊びの会（シニアクラブ）、紙飛行機大会（スポーツ推進委員）学校家庭地域連携事業（ふれあい音楽会等）の協力

基本目標4

「健康長寿の里」を目指す自立の地域づくり

＜市内で一番健康長寿な地域をめざします＞

通年的活動…健康づくり重点5項目に基づく活動（保健活動推進員）、食育など食生活改善活動（ヘルスマイト）、スポーツの振興を図る活動（スポーツ推進委員）

イベント的活動…レインボーウォーキング（保活・連合共催）、「笑顔で楽しく健康長寿講座」（共催）、地区レクリエーション大会（連合・スポーツ推進委員）

令和2年4月1日に開園した瀬谷本郷公園はらっぱ広場は子どもから高齢者までプレイパークなど地域の居場所としてさらに活用します ※以下の写真は、瀬谷本郷公園の開園した当初の様子です。

①ぼうけん広場



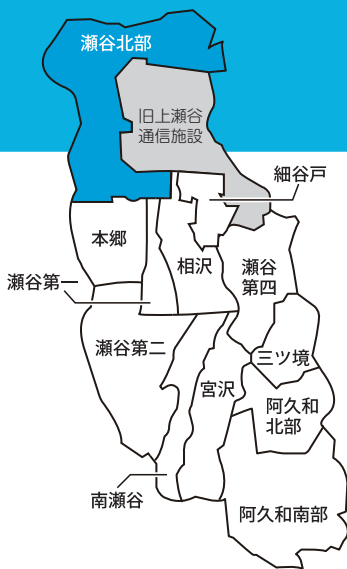
②健康広場



③瀬谷歴史カルタ



写真①③は子ども、②は大人の意見が反映されて、名実とも地域の子ども・大人の共同参画型の瀬谷本郷公園はらっぱ広場となっています。



瀬谷北部地区

1 地区の概況

- ◆東中央部に旧上瀬谷通信施設(242ha、2015年返還)がある。
- ◆北東部は企業の倉庫等工業エリア。
- ◆北西部は大規模マンション、住宅地があり高齢化率を押し下げ瀬谷区内では最も高齢化率の低い地区である。
- ◆農振地区、農業地区として畑が多く残っている。
- ◆旧上瀬谷通信施設で2027年国際花博が開催予定。都市交通鉄道上瀬谷ラインや、土地利用基本計画に基づく整備を予定しており、将来大変貌が予想される。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆交流、啓発事業・高齢者への支援・子育て支援
- ◆防災グッズの配布など見守りと災害対策・障害者理解・広報の強化
- ◆食事会、サロンなどによる高齢者支援
- ◆移動販売による買い物弱者支援
- ◆町内会と地区社協共催による健康づくり
- ◆地域と学校の交流(瀬谷養護学校、上瀬谷小学校)
- ◆地域ケアプラザとの連携による高齢者の生きがい支援
- ◆子ども食堂の開設

3 第4期計画に向けての課題

- ◆地域活動の担い手の確保
- ◆隣近所と顔見知りの関係を強める共助の概念の普及、啓発
- ◆地域活動に参加したいが出来ない方への支援策
- ◆子ども会の再生と一層の活発化
- ◆要援護者の早期把握と具体的援護策
- ◆境川などの水害時の避難策

4 推進母体

瀬谷北部地区別計画策定推進委員会

瀬谷北部町内連合会と瀬谷北部地区社会福祉協議会が中心となり各種団体等と学校が協働する推進組織

みんなで支えあい 顔の見える笑顔あふれる地域づくり

地域活動の
活発化と
担い手づくり

暮らしやすい
まちづくり

高齢化社会へ
の対応と
健康づくり

《地域活動の活発化と担い手づくり》

- ・退職者など第二の人生の生きがい創出の啓発
- ・ボランティア活動の充実感の啓発
- ・各自治会・町内会のイベント充実と参加要請
- ・子ども会の再生と行事の活発化

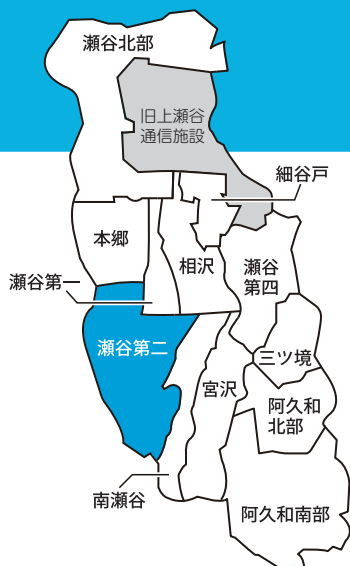
《高齢化社会への対応と健康づくり》

- ・むつみ会によるふれあい食事会の実施
- ・民生委員によるひとり暮らし高齢者食事会「あじさい会」の実施
- ・サロン活動の充実
- ・配食サービス「かしわ会」の実施
- ・地域ケアプラザとの連携による高齢者の生きがい支援
- ・町内会、地区社協共催の「生き生き中屋敷ライフ」の実施
- ・要援護者の早期把握と具体的援護策の策定

《暮らしやすいまちづくり》

- ・増加する外国籍の方々への地域社会のルールの徹底
- ・隣近所と顔見知りの関係を強める共助の概念認知
- ・移動販売車による買い物弱者への支援拡充
- ・瀬谷養護学校の地域交流フェスティバルへの積極的参加
- ・上瀬谷小学校キッズ学援隊による見守り活動
- ・防災訓練の実施
- ・農業体験を通じた子ども達の育成
- ・子ども食堂の充実
- ・子育てお母さんの集い（タッチ）の実施

瀬谷第二地区



1 地区の概況

- ◆瀬谷区の南西部に位置し、境川を挟んで大和市と隣接している。
12地区中、人口・世帯数が最も多く、22の自治会がある。
- ◆65歳以上の人口比率は、区平均とほぼ同じですが、地区内では地域ごとのばらつきがある。
- ◆地域の中で、様々な取組・イベントが活発に行われている。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

1.健康づくり (第3期から実施)

- ・健康食事の推進
- ・ラジオ体操、健康体操の普及実施グループ支援
- ・ウォーキングの推進
- ・禁煙運動の実施 等



2.災害対策の向上

- ・「高齢者と障害者の防災と福祉の実行委員会」の支援
- ・防災グッズの希望者への配布
- ・防災ガイドの配布
- ・高齢者・障害者／災害時要援護者の把握の促進

3.まちの安全を守る活動

- ・安心散歩みち推進事業 「安心散歩の日」の実施
- ・防犯・防災・交通安全の視点で危険箇所をチェック
- ・交通安全教室の実施と交通マナーの普及
- ・防犯パトロール(連合、学援隊)
- ・あいさつ運動 等

4.地域活動への参加拡充

- ・「人と地球にやさしく」をみんなで考える集いの開催
- ・福祉研修会(第3期から開催)
- ・サロン開設の促進
- ・サロン連絡会の開催と支援 等



5.子ども・青少年の見守りと支援

- ・ふるさと祭り
- ・子育て交流会
- ・いきいき瀬谷っ子
- ・レクリエーション大会
- ・学援隊との連携
- ・子ども食堂支援 (第3期から実施) 等



6.高齢者・障害者への見守りと支援

- ・福祉大会「ゆずり葉の集い」の開催
- ・地域サロン活動の支援
- ・高齢者と障害者の防災と福祉の実行委員会支援
- ・障害者への理解を深める研修
- ・認知症を理解しましょう／研修会
- ・認知症予防ガイドの作成 (第3期から実施)
- ・老人会活動
- ・友愛活動:見守り 等



7.ボランティア活動の拡充

- ・配食サービス <ひまわり会>
- ・ボランティア活動 <瀬谷第二地区 生活応援隊>(第3期から実施) 等

3 第4期計画に向けての課題

- ◆地域全体の活動として、連自治会、地区社協、各種団体として推進する体制を拡充
- ◆高齢化対応を考慮し、参加しやすい活動としての体制の強化
- ◆ボランティア活動を受けたい方、支援できる方の把握と、活動拡大に注力
- ◆地域の方々の理解を深める啓発・広報活動の充実

4 推進母体

瀬谷第二地区社会福祉協議会、瀬谷第二地区連自治会

第4期 瀬谷第二地区地域福祉保健計画

(令和3年度～令和7年度)

目指すまちの姿

「誰もが健康で 安全に 安心して、 心豊かに暮らせるまち」

取組姿勢：地区社協、連合自治会は自治会町内会、諸団体と連携して、皆様の日常生活の支援を行い、生活でのお困りごとや、ご不安に傾聴し、区役所、福祉機関や施設への橋渡しに注力致します。



1.健康づくり

目指す姿：皆さんが健康で、
いきいきと暮らせるまち

健康食事の推進

ラジオ体操・健康体操の拡大

実施グループ支援

ウォーキングの推進

禁煙運動の実施



7. ボランティア活動の拡充

目指す姿：地区内で、
誰もがボランティア活動を行えるまち

ボランティア活動

瀬谷第二地区<生活応援隊>

配食サービス<ひまわり>



2.災害対策の向上

目指す姿：防災意識が
共有できているまち

高齢者と障害者の
防災と福祉の実行委員会

防災グッズの希望者へ配布

防災ガイドの全戸配布

防災訓練・水防訓練



3.まちの安全を守る活動

目指す姿：誰もが安心
して生活できるまち

防犯パトロール

「交流の場」の情報

「安心散歩の日」

安心散歩みち推進事業



4.地域活動への参加拡充

目指す姿：皆さんが自治会・
町内会 会員として共に活動
に参加するまち

サロンの開催・

サロン主催者交流会

「人と地球にやさしく」を

みんなで考える集い



5.子ども・青少年の 見守りと支援

目指す姿：子どもたちが夢と
希望を持ち、健やかに育つまち

みんなで声かけやあいさつ

ふるさと祭り 子育て交流会

いきいき瀬谷っ子



瀬谷第二地区 みんなの幸せプラン

6.高齢者・障害者への 見守りと支援

目指す姿：高齢者・障害者
が安心して暮らせるまち

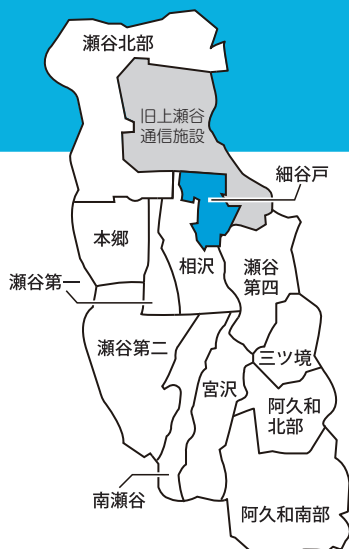
福祉大会「ゆずり葉の集い」

地域での見守り

認知症高齢者への
理解促進



細谷戸地区



細谷戸地区には相沢六・七丁目の一部も含まれます。

1 地区の概況

- ◆旧上瀬谷通信施設に隣接する県営住宅が中心となる地域で、世帯数は約1,400戸。連合自治会の様々な行事や一斉清掃を行うなど行動力があり、地域の結束力を強めている。
- ◆年齢構成は、65歳以上の割合が約45%と、区平均約28%と比較すると高い割合となっている。
- ◆家族構成は、区平均と比べて、単身・夫婦のみ・ひとり親と子の世帯が多い。近年は外国籍の世帯も増加している。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

◆ビーハイブ活動(※)を進める実施委員会を設立

- ・自治会単位での高齢者見守り活動
- ・安心キットの配布、見守りパトロール
- ・親子交流会

⇒平成31年度から「おあしす102実施委員会(※)」内で活動を継続

※「ビーハイブ活動」

孤独死や孤立を防ぐことを目的にした、ビーハイブ(蜂の巣)の様にきめ細かい高齢者の見守り体制づくり。

※おあしす102実施委員会

細谷戸地区の中に拠点となる場(住宅)を県より借り、ここを広く高齢者や子どもたちの「地域のおあしす」として無料開放している。その運営をおこなっているのが、おあしす102実施委員会で、102とは部屋の号数。

- ◆細谷戸県営住宅の空き家を活用した拠点おあしす102の運営
- ◆高齢者を対象とした、はつらつクラブ(転倒予防体操)《毎週火曜日》やラジオ体操《毎週土曜日》
- ◆お助けパートナー(高齢者世帯への軽作業の手伝い)
- ◆高齢者定期訪問(地区社協、地区民児協による)
- ◆サロン細谷戸《月1回》
- ◆子育てお母さんのつどい《月1回》
- ◆外国籍の親子を対象としたイベントの開催
- ◆その他 研修見学参加

3 第4期計画に向けての課題

- ◆高齢者の安否確認や見守り方法の継続・拡充
- ◆地域の子どもを育むための活動について検討
- ◆各事業を推進に向け次期役員(ボランティア含む)の育成
- ◆地区の活動並びに福祉保健計画をよりよく知ってもらうための広報活動

4 推進母体

細谷戸地区福祉保健計画実行委員会

細谷戸連合町内会・細谷戸地区社会福祉協議会を中心とした各団体の代表者で構成

「心が通じる地域づくり・地域は家族」

—高齢化社会のおあしす地域—

【取組姿勢】

第1期～第3期計画での、ビーハイブ活動を中心とした取組を今後は、より高齢化が高くなった当地域で「おあしす102実施委員会」を拠点とし、瀬谷区で唯一高齢者用の集会施設を持った地域として、第4期では、これを活用し活動していく。

【取組内容】

1 おあしす102活動の推進、前ビーハイブ活動を推進

- ・ これまでの活動をより推進して、安心キットの必要性を幅広く伝えていく引き続き、既に配布している安心キットの中身の点検を行う
- ・ 地域のパトロール活動を持続可能な範囲で実施する
- ・ 地域の拠点としてのおあしす102の活用について検討していく

2 地域内の子ども育成対策、大人と子どもの交流

- ・ 子どもが安心して過ごせる環境づくりに注力し、「子どもと大人」との交流の場を増やす
- ・ 地域と学校の連携を深める
- ・ 子どもを対象とした行事を検討し、実施していく

3 災害時の対応、災害時の行動

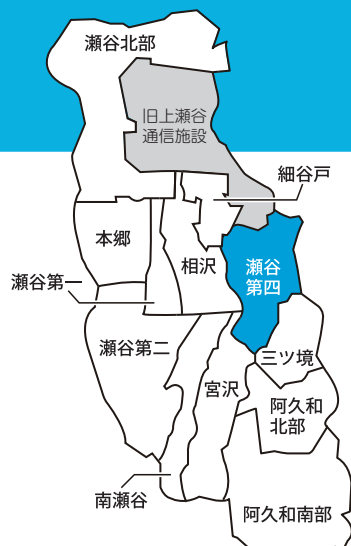
- ・ 障害のある方への支援方法について、連合町内会やその他の組織の在り方や連携の仕方を考える
- ・ 一般的な震災や火災等については、おあしす102実施委員会と連合町内会、自治会が協力して進めていく

4 障害のある方の把握と援護、広報活動の推進

- ・ プライバシー等に注意し、できる範囲で障害のある方を把握する
- ・ 定期訪問の機会を利用して、声かけを行う。相談ごと、困りごと等の話を聞き、関係機関等と連携する
- ・ 安心キットは可能な限りの設置を呼びかける



瀬谷第四地区



※瀬谷第四地区には瀬谷二丁目の一部も含まれます。

1 地区の概況

- ◆相鉄線三ツ境駅が徒歩圏内にあり、幹線道路である横浜厚木線や、丸子中山茅ヶ崎線、瀬谷柏尾線が交差するなど利便性が高い地域。
- ◆地域内に区役所、福祉保健活動拠点、地域ケアプラザなどの公共施設や特別支援学校、小中学校もあり、福祉保健活動団体の活動が活発に行われている。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

◆連携(つながり)の強化

- ・自治会・民児協・地区社協の連携
- ・町内会単位の見守り・防災活動
- ・気づきのキャッチ・見守りのリレー事業
- ・見守りサポーター活動
- ・「元気塾」介護予防運動
- ・子育て・障害者支援
- ・あいさつ運動・声かけ運動(見守りサポーター)

◆高齢者の生きがいづくり

- ・地域活動拠点増設
- ・会食会設立・配食サービス
- ・地域活動の協力体制
(男のボランティアとなり組)(女性のボランティア)

◆地域活動の活性化

- ・自治会単位での活発な防災訓練
- ・自治会単位で活動する
- ・ボランティア活動員の発掘と育成

◆情報・交流の機会

- ・福祉保健新聞
- ・福祉保健まつり
- ・第四地区のきずな

◆人材発掘・人材育成

- ・担い手の増員
- ・地域参加率向上



連携(つながり)の強化
レクリエーション大会

3 第4期計画に向けての課題

第4期地域福祉保健計画は、一人暮らし高齢者、認知症、障害者、子どもの貧困等、地域活動としてどんな支えができるのか、また地域活動に参加していない住民のつながりをどのように進めるのか、地域活動を継続していくためには、次の世代にどのように引継ぐ体制で進めるのか等を重点に考えた地域活動を策定して行く。

4 推進母体

瀬谷第四地区福祉保健計画実行委員会

瀬谷第四地区社会福祉協議会、連合自治会、民生委員児童委員協議会等



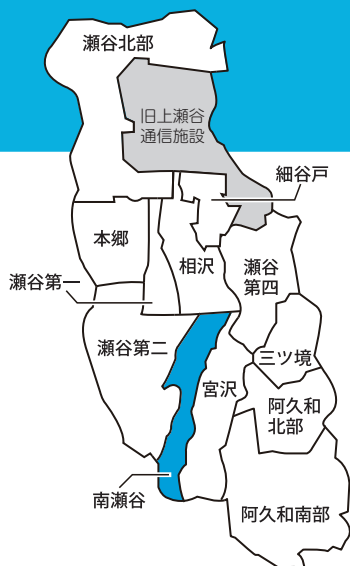
瀬谷第四地区マスコットキャラクター
よんたくん

第4期 瀬谷第四地区地域福祉保健計画 【令和3年度～令和7年度】

誰もが安心して暮らせるまちづくり

テーマ	目標値(あるべき姿)	活動目標値 (5年間の活動目標)	具体的な活動
よんたくん広場	地域の人みんなで協力し、それぞれの価値を認めながら、子どもの健やかな成長を見守る	(1) 子育て支援イベントが計画されている	子どもの可能性を引き出す体験を提供： よんたくん広場
		(2) 地域全体で子どもを見守る活動ができている	民生委員・児童委員、青少年指導員、スポーツ推進員、保健活動推進員、消費生活推進員、女性地域安全委員、PTAなどとの連携による活動 ・子どもが安心して過ごせる地域づくり（見守り運動、あいさつ運動、声かけ運動、登下校時の見守り）： 連合自治会、二つ橋サポーター（ふたさぼ） ・子どもの居場所づくり： よんたくん広場
		(3) 子どもの健全な育成が進められている	学校、区役所、区社協、ケアプラザなど関係機関との連携 ・ひとり親家庭の支援、子ども食堂、放課後の支援： よんたくん広場
		(4) 多様な世代の大人が子どもに関わり、お互いが感謝の気持ちをもって、一緒に活動する場ができている	学校との連携 幅広い世代が協力し合える地域活動の検討 ・三世代交流イベント： 子育て広場「ゆうスリー」 ・学校地域協働： 二つ橋サポーター（ふたさぼ）
連携（つながり）の強化 よんたくん倶楽部	次世代の方が中心に新しい地域活動ができている	(1) 地区社協事業の中で、次世代の方が中心になって地域活動を進めている。	・地域で暮らす誰もがそれぞれの立場で一人一役活躍できる場ができている
		(2) 「誰もが参加できる地域づくり」「みんなが自由に作れる地域活動」楽しく自由に参加できる環境になっている	・地域住民参加で楽しく暮らせるまち作り研修会。人と人のつながるまち作り研修会が実施されている
		(3) 孤立する人がなく「お互い様」で仲良く、元気に、楽しく生活できるまちになっている	・第四地区福祉保健計画活動のイベントに積極的に地域住民が参加している
		(4) 地域社会の中で人と人のつながりができ、理解し合って、それぞれ自分らしく、生き生きと暮らせるまちになっている	・第二の人生参加窓口/地域デビューへの誘い/次世代をつなぐカリキュラムができている
		(5) 地域社会はみんなのもの、みんなで作る、支え合いのできる第四地区の暮らしができている	・健診のPR/ラジオ体操/フリーで集まれる場/世代間交流イベント/隣近所でお茶飲み会が進んでいる
SOSよんたくんネットワーク	高齢者、障害者、認知症、核家族化を支えられる体制ができている	(1) 高齢者が元気に地域活動に参加し楽しい人生を送っている	・ボランティア活動団体のネットワークが確立されている
		(2) 支える人支えられる人が「お互いさま」で暮らせるまちになっている	・認知症徘徊支援体制が確立されている ・介護経験のある人が集まりケアラーを支えるまちになっている
		(3) 見守りサポーターは社会的弱者の理解を深める研修会を進めながら、声掛けのできるまちになっている	・当事者家族との交流が進んでいる
		(4) オレンジのひも付き名札をつけて目で見える地域活動を進めている	・見守りサポーターが活発に活動し安心して暮らせるまちになっている

南瀬谷地区



1 地区の概況

- ◆区の中央部から南に延びる細長い地区で、南は泉区に接しており、18の自治会がある。
- ◆地区内にはスポーツセンター、コミュニティ・スクール、小・中・支援学校等の公共施設や市営団地集会所、高齢者等生活相談所「あつて～南瀬谷」など活動の拠点多くある。
- ◆地区の中央部は大規模な公営住宅、北・南側は戸建てが多い地域となっている。
- ◆他地区と同様に少子高齢化が進んでいる。特に65歳以上の割合は、12地区の中で2番目に高くなっている。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

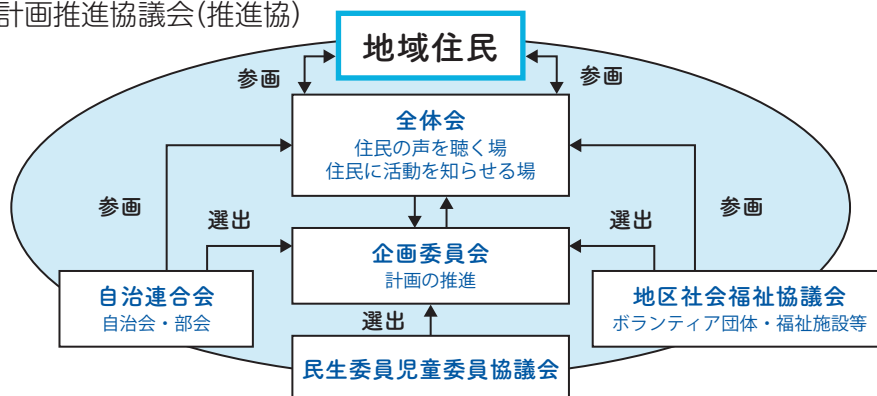
- ◆地域住民の交流や見守りの場として、4か所の高齢者サロンや、こどもたちの屋外の自由な遊び場として平成23年に【こどものもりプレイパーク】が誕生した。これらの活動を継続することで、住民同士の交流の輪が広がった。
- ◆福祉活動の総合拠点として平成20年に高齢者等生活相談所【あつて～南瀬谷】が出来た。
- ◆地域の情報誌【みなみせや情報通信】を平成23年から発行し全戸配布することで、地域で今何が行われているかを地域住民に発信することが出来た。
- ◆全住民対象に「地域活動への協力アンケート」を実施し、その結果に基づき登録制のボランティアチームとして【みなみせやサポーターズ】が平成27年に発足した。さらに、その活動から地域の環境整備に取り組む【みなみせやフラワーズ】が平成30年に発足した。
- ◆地域住民同士のコミュニケーションの輪を広げるために【あいさつ運動】に平成23年から取り組んだ。小・中・支援学校での標語やポスターの募集と展示、啓発グッズ作成、街頭運動、あいさつ憲章の制定等の活動をとおして【あいさつ♥いっぱい♥みなみせや】の合言葉と共に意識向上を図った。
- ◆第3期計画のテーマ【みんなで育てよう暮らしやすいまちみなみせや】を推進していく上で、もっと多くのまちの人の声を生かし、活動の輪を広げるために組織改革に取り組んだ。多くの地域住民の声を聴きみんなが計画の推進に参画できるように、地域住民、自治連合会、地区社会福祉協議会ボランティア団体、福祉施設等が参加する《全体会》、自治連合会と地区社会福祉協議会等から委員を選出し全体会の運営や企画の推進役を担う《企画委員会》を設置した。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆第3期計画では、この計画を【みんなのために みんなでつくる みんなの計画】にするため、計画を推進していく組織体制の見直しを図った。
- ◆第4期計画では《全体会》を実施することで、地域活動に携わるすべての人に意識を高めると共に、多くの住民の声の反映を目指す。《全体会》であげられた、こどもたちへの支援・災害時の助け合い・見守り合い・助け合い・若い世代が活躍できる場づくり等の課題に取り組む。

4 推進母体

南瀬谷地域福祉保健計画推進協議会(推進協)



まちのテーマ

みんなで 育てよう 暮らしやすいまち みなみせや

地域みんなで目指すまちの姿

- 交流が広がるまち
- 自分たちで守る安心・安全なまち
- みんなが地域活動に参加できるまち
- 向こう三軒両隣(おたがいさま・助け合い)のまち
- 健やかにこどもが育つまち

重点
取組

みまもりや
支え合いの
仕組み充実

重点
取組

災害時の
助け合い

重点
取組

子育て中の
親や子の
居場所づくり

第1~3期に取り組んだ成果

地域一丸となった
あいさつ運動の取り組み

南瀬谷サポーターズの発足
みなみせや情報通信の発行

こどもの遊び場プレイパーク
高齢者サロンの充実

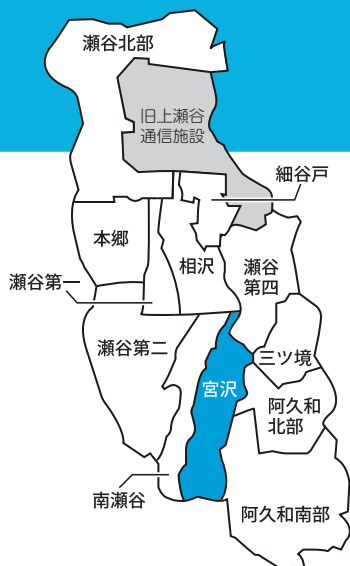
この他にも
あって~南瀬谷開設等の
多くの**成果**が
生まれました

自治連合会
地区社会福祉協議会
民生委員児童委員協議会
が中心になって
地域のみなさんと一緒に
この計画を実行していきます

南瀬谷地区の合言葉

あいさつ♥いっぱい♥みなみせや

宮沢地区



1 地区の概況

- ◆北は厚木街道に南は泉区に接し、東に和泉川が流れる水と緑に囲まれた風光明媚な約3.8kmの細長い短冊形の地域。宮沢1丁目から宮沢4丁目全域と二ツ橋町・南瀬谷1・2丁目の一部を含めた、11の自治会・町内会の構成で宮沢連合自治会を運営している。
- ◆一戸建ての住宅が多く、持ち家率も高く、居住年数20年以上が多く定住率が高い。
- ◆人口は9,270人と減少している。高齢化率は26.9%と年々増加している(令和2年9月末)。
町内会・自治会加入世帯は2,806世帯を数える(令和3年4月末)。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆**災害対策**では、防災拠点実行委員会を設置して「防災拠点避難所開設マニュアル書」を実情に合わせて改訂し、避難訓練を行い、各町内会別の初期消火訓練等も行った。
- ◆**地域での健康づくり**では、シニア世代を対象に介護予防や認知症予防等の講座を開催。またラジオ体操サークルやウォーキングイベントを充実。異世代交流カローリング大会も好評であった。
- ◆**地域活動と見守り体制の充実**では、全町内会館でサロンを開催した。また、早朝防犯清掃パトロール、長期休みの中学生～大学生ボランティア、小学生を含めた家族の公園清掃の参加等、若い世代の活躍は地域を明るくしている。
- ◆**誰にもやさしいまちづくり**では、親しみやすい公園の愛称のプレートを設置。サマーフェスタの実施等誰もが参加出来るイベントを開催した。全世帯アンケートに基づいて移動販売を開催した。
- ◆**活動拠点の確保**では、公共用地を活用した地域活動拠点の建設で、子どもや高齢者・障害者の居場所づくりを今後の課題として関係機関等に働きかける。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆地域づくり塾の研修で学び、全世帯対象の「福祉アンケート」を実施。そこで移動販売の必要性が明らかになり、試行錯誤しながら移動販売を実施できた。地域住民誰もが暮らしやすいまちづくりが更に求められている。
- ◆アンケート実施の中、一定程度ボランティアの確保ができた。見守りのネットワーク化が進んでいるが、世代交代に向けた新たな人材育成が重要である。

4 推進母体

宮沢まちづくり推進委員会

宮沢連合自治会・宮沢地区社会福祉協議会・宮沢地区民生委員児童委員協議会の三者で設置する

目標 水と緑のまちづくり宮沢・暮らしやすい宮沢

お互いさまで支え合うまちづくり・健康でいきいきと暮らせるまちづくり・
誰もが安心して活躍できるまちづくりを宮沢地域のみなさんで目指しましょう！

1 防災・減災対策のまちづくり

- ・ 防災拠点実行委員会を中心に障害者や要援護者を含めた防災訓練の充実
- ・ 認知症や障害の有無や国籍や性別に分け隔てなく対応する防災マニュアルの作成
- ・ 向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりを目指した「ご近所カード」等の作成
- ・ 初期消火訓練や救急救命訓練等身近なエリア（町内会・自治会）で防災訓練の実施

2 地域での健康長寿のまちづくり

- ・ 講演会や実技を含めた健康づくりの場を地域交流の機会としても企画
- ・ 高齢者と次世代を担う小学生との軽スポーツを通じて異世代交流
- ・ "水と緑のまちづくり宮沢" を生かした誰でも参加できるイベント

3 地域活動とお互いさまで見守り合い・助け合い風土のまちづくり

- ・ 高齢者から子どもまで、様々な方々が優しく集える居場所づくり
- ・ 顔の見える関係づくりの推進と担い手の確保と育成を目指した風土づくり
- ・ 各サロン活動との連携と情報共有による見守り体制の充実

4 誰にもやさしいまちづくり

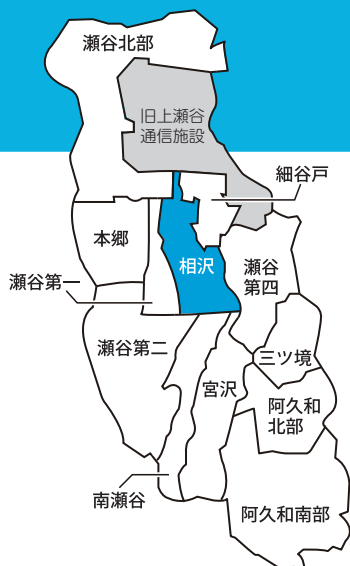
- ・ 公園の愛称を生かしたイベント等を通じて、宮沢の水と緑と自然をアピール
- ・ 住んでいて良かったと言える誰にも暮らしやすい安全・安心なまちづくりを追求
- ・ 買い物が不便な地域での「移動販売」を継続
- ・ 空き家状況の把握と福祉の里としての居場所づくり等活用方法を検討
- ・ 関係機関と連携して、困りごとを抱えている方々の相談への対応

5 活動拠点のあるまちづくり

- ・ プール公園の管理棟の改修時や公共用地を活用した活動拠点の確保
- ・ 宮沢保育園の改修工事に合わせて、地域に提供できる会議室設置を求める



相沢地区



1 地区の概況

- ◆1haあたりの人口と世帯数は、区平均より高くなっている。
- ◆年齢構成(3区分別人口比率)は、区平均とほぼ同様だが、わずかに15歳未満が少ない。
- ◆家族構成(家族類型別世帯)は、区平均と比して単身世帯が多く、夫婦と子世帯が少なくなっている。
- ◆区平均と比べて居住年数20年以上の人の割合がやや高くなっている。
- ◆区平均と比べて民営借家の比率が高い。特に駅に近い相沢一丁目では民営借家が6割を超えている。また駅から遠い相沢5丁目では持ち家比率が7割を超えており、地域差には交通利便性の影響が考えられる。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆配食サービス「火曜の会」
- ◆相沢ふれあいサロンI及びII
- ◆わいわいおやこ会
- ◆ふれあい体操の会
- ◆ふれあい食事会
- ◆見守り活動「こんにちはチーム」
- ◆健康保健講座の開催
- ◆「相沢助け合いの会」
- ◆隣近所のさりげない見守りによる地域づくり
- ◆障害のある方たちとの交流の場をつくる



障害のある方たちとの交流

3 第4期計画に向けての課題

- ◆ボランティアの活動団体等多くの活動において、今後の担い手の不足が心配されている。
- ◆近年、児童虐待や子供の貧困が大きな社会問題となっている中、地域でできることを検討する必要がある。
- ◆「隣近所のさりげない見守りによる地域づくり」における「災害時の支え合い運動」は、各町内会、民児協、地区社協が連携を強め進めていく必要があるが、長期にわたる検討が必要がある。
- ◆「相沢助け合いの会」は、支援者の確保が課題。



「配食サービス火曜の会」

4 推進母体

相沢町内連合会、相沢地区民生委員児童委員協議会、相沢地区社会福祉協議会

地域で生活するすべての人が安心して生活できるまち

～おせっかいでぬくもりのあるまち～

「わいわいおやこ会」
子育てパパママの支援

子どもを大切に
にするまち

地域でできる児童虐待の
防止や子どもの貧困対策
子供食堂や学習塾の検討

「配食サービス火曜の会」
一人暮らしの高齢者へ見守り
も兼ねたお弁当の配食



まちの子どもの見守り
登下校の見守りなど

「相沢ふれあい食事会」
一人暮らしの高齢者のため
のふれあいと食事の会

隣近所の見守りによる
地域づくり
5つの柱を支える推進
委員会の開催

青少年の健全育成
青少年指導員の支援

お年寄りを大切に
にするまち

犯罪のない
安全なまち

「ふれあい体操の会」
転倒防止などの体操



「社会を明るくする運動」
～相沢ふれあいのつどい～

「相沢助け合いの会」
高齢者などのための
ちょっとしたお手伝い

見守り活動
「こんにちはチーム」
活動団体による見守り
・連絡会の開催

障害のある方たちとの交流
交流会・施設訪問など

「交通・生活安全講習会」
自転車講習や詐欺などの防犯

障害のある方たち
と共に生きるまち

「サロンひだまり」
地域のふれあい

「ふれあいサロンⅠ及びⅡ」
子どもから高齢者まで地域
のふれあい



障害の理解講座の開催
共に生きる心を学ぶ

「健康保健講座」
感染症対策や認知症
などの講座の開催

すべての人が健康で
明るく生きるまち

スポーツの推進
スポーツ推進員
の支援

広報誌「こんにちは」
の発行

相沢地区のボランティア
通信の発行



5 全域計画

全域計画として「区役所」「区社会福祉協議会」「地域ケアプラザ」が5年間で取り組む方向性についてまとめました。

(1) 区役所

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で 支え合う地域づくり

- ・身近な地域の支え合いを啓発し、高齢者・障害者等の居場所づくりや見守り支え合い活動を支援します。また、困っている人に寄り添える関係づくりの取組を進めます。
- ・子育て中の方が孤立しないよう、地域の方々や各機関が連携し、地域で安心して子育てできる環境づくりを支援します。
- ・様々な課題を抱える家庭や生活に困窮する方への包括的な相談・支援により、生活基盤の安定・自立を図ります。
- ・地域住民が実施する防災訓練の支援、区が実施する研修会等による啓発活動を通じて、地域防災力の向上につなげます。
- ・区民の防犯及び交通安全の意識向上のため、啓発活動などを通じ、安心・安全なまちづくりを進めます。
- ・地域情報の収集、各種情報の発信、地域活動の支援を通じ、地域のつながりづくりを進めます。

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと 暮らせる地域づくり

- ・健康寿命の延伸や健康的な生活が送れるよう、生活習慣病の予防・重症化予防や介護予防に関する取組を進めます。
- ・こころや体の健康の大切さについて区民へ周知し、病気の予防・早期発見のため、各種健診の受診率や健康意識の向上を目指します。
- ・自主的な健康づくりの活動を支援し、生きがいをもち、幅広い世代が元気に暮らせる地域づくりを進めます。
- ・食中毒・感染症の予防及び拡大防止等について、区民や社会福祉施設等へ呼びかけ、健康危機管理に取り組みます。
- ・あらゆる世代のスポーツや障害者スポーツを通じて、子どもたちの体力向上、区民の健康維持や地域交流等、いきいきとした暮らしを推進します。
- ・公園を使いやすいように維持し、公園利用者へ健康遊具の活用について積極的な紹介を行い、健康づくりの取組を支援します。

- ・年齢、性別、障害・病気等の有無にかかわらず、誰もが地域の活動や人と人との関わりの中で、お互いに尊重し合い役割が担えるよう取組を進めます。
- ・学校や地域での幅広い年齢層の方々との交流活動を通して、子どもたちが地域で豊かに成長することを支援します。
- ・子どもたちの学びを支えるさまざまな方々と連携し、地域で行う子どもたちの学習をサポートするための活動を支援します。
- ・日頃からの防災対策や震災や風水害等の災害時、区民へ必要な情報を発信し、一人ひとりの迅速な災害対応につながるよう支援します。
- ・国際園芸博覧会の機運醸成^{きうんじょうせい}に向けた取組や上瀬谷通信施設の跡地利用をはじめとしたまちづくりを区民、事業者等が協働で進め、暮らしやすいまちの実現を目指します。
- ・地域の課題に各種団体が連携して取り組める土壌を作るとともに、人材の発掘及び育成に取り組み、地域活動につなぐしくみを作ります。
- ・公園や歩道の段差解消や整備などに取り組み、利用者の安全確保やバリアフリー化の推進を図ります。

コラム



生活にお困りの方へ ～生活困窮者自立支援制度～

生活困窮者自立支援制度では、一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行います。

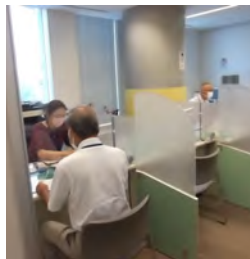
「仕事が見つからない」「家計のやりくりが厳しい」等、生活の困りごとや不安を抱えている場合には、生活支援課(電話:367-5705 瀬谷区役所4階42番窓口)にご相談ください。

一人ひとりに寄り添いながら、困りごとの解決や不安の解消に向けて支援します。

まずは生活支援課に相談

仕事を探す

区役所内にあるハローワークの窓口(ジョブスポット)と連携して、求人票の検索をはじめ、履歴書の書き方や模擬面接など、お仕事探しのお手伝いをします。



仕事に慣れる

すぐに仕事を始めることが不安な場合、協力事業所で短時間の実習からスタートするなど、就労の準備をサポートします。

家計を見直す

借金の返済や公共料金等の支払いなどに困っている人の家計の立て直しについて、一緒に考えていきます。

家賃を支援する

失業や減収により家賃の支払に困っている人に、収入・資産・求職活動などの要件を満たしている場合には、一定期間の家賃を給付します。

(2) 区社会福祉協議会

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で 支え合う地域づくり

- ・ボランティアや地区社協、地域ケアプラザ等関係機関と連携し、一人ひとりが抱える困りごとについて、地域が一体となって解決できる地域づくりを進めます。
- ・こどもが健やかに育つ地域づくりを目指し、学習支援、地域での居場所づくりに取り組みます。
- ・広報紙やホームページ等を活用することで、介護予防や社会参加の場等様々な福祉保健に関する情報を発信します。
- ・民間企業や支援団体等からの協力により、生活困窮者や地域活動団体に「食」をはじめとした生活支援を行います。
- ・ガイドボランティア等を育成・発掘することを通じて広く区民に障害への理解を促し、おたがいさまの地域づくりを目指します。

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと 暮らせる地域づくり

- ・「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」のための地域活動支援と新規活動の構築を進めます。
- ・地区活動に関わる各種助成金の交付を行います。(瀬谷区ふれあい助成金、地区社協活動費、賛助会費還元金等)
- ・福祉教育の取組を通じて、障害や福祉への理解の機会を作り、地域には様々な人が暮らしているということに気づく力を高めます。
- ・権利擁護事業及び成年後見制度の利用促進に向けて、区役所、地域ケアプラザと連携し周知啓発の取組を進めます。
- ・区役所と共催し、長寿を祝う等高齢者への支援を行うとともに、福祉保健活動者の功績をたたえ、社会福祉功労者表彰式を開催します。
- ・新型コロナウイルス等の感染症により、地域活動のつながりを途切れさせないよう新生活様式に配慮した取組の支援、啓発を行います。

基本目標Ⅲ

誰もが活躍できる 地域づくり

- ・区民のボランティア活動への関心を高め、活動しやすいコーディネートを行います。
- ・既存の様々なボランティア・福祉保健活動団体が継続していきいきと活動できるよう支援します。
- ・幅広い年代の人がボランティア活動を通じて地域福祉への関心を高めていけるよう働きかけます。
- ・社会福祉施設や民間企業等と連携した地域支援を進めます。
- ・区災害ボランティアネットワークとの協働により、平時からの訓練を行い、発災時の対応について地域の意識を高めます。
- ・さまざまな寄付のかたち(フードドライブ、ヨコハマ寄付本等)を提案することで、寄付文化の醸成を図ります。

(3) 地域ケアプラザ

“おたがいさま”で 支え合う地域づくり

基本目標Ⅰ

- ・認知症の方とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、理解者を増やすとともに、普及啓発、担い手の育成を目指します。
- ・医療・介護の専門職と地域の方とともに支えあいの地域づくりを進めます。
- ・虐待の防止や早期発見のため、区役所や関係機関、地域住民とネットワークを構築し、連携を図ります。
- ・地域ケアプラザの福祉避難所としての位置づけを地域へ周知します。
- ・地域で子育てする親子が、子育て中の不安や悩みが相談でき、仲間づくりができる子育てサロンや子育てサークルなどを紹介し、親子のサポートを行います。
- ・企業や商店と連携し、生活しやすいまちづくりを支援します。

健康でいきいきと 暮らせる地域づくり

基本目標Ⅱ

- ・「よこはまウォーキングポイント」「よこはま健康スタンプラリー」の広報や啓発を行い、区民の健康構築を支援します。
- ・健康づくりや体力づくりの講座を開催し、健康でいきいきと暮らせるように情報提供します。また、地域で行われている「元気づくりステーション」の支援もおこないます。
- ・地域の社会資源開発及び介護予防を推進します。
- ・健康づくりに関心のある区民と連携・協働しながら介護予防・健康づくり活動の取組(場づくり)を進めます
- ・高齢者、こども、障害児・者、生活困窮者等、広く本人やその家族等の相談を受け止めます。
- ・コロナ禍で体力低下している区民が増えています。在宅でも出来る健康づくりや体力づくりをチラシやホームページ等で情報発信していきます。

誰もが活躍できる 地域づくり

基本目標Ⅲ

- ・ケアプラザ内にWi-Fiを設置し、地域福祉団体にも活用していただきながら活動の幅を広げていただけるように支援します。
- ・支える側、支えられる側と区別することなく、支えられる側にも出来ることを見つけ、生甲斐が持てるように支援します。
- ・幅広い世代のボランティアの発掘・育成に取り組み、それぞれが各々の特技(得意とすること)を活かせる場づくりを推進します。
- ・介護技術の取得や介護相談が出来る場として『介護者のつどい』を拡充強化し、家庭での介護を支援します。
- ・障害や認知症等の有無に関わらず、その人が無理なく出来ることを活かせる場に繋げられるよう支援します。

6 地域福祉保健計画

(1) 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、「地域に暮らす誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるように、区民・団体・事業者・行政の役割と連携を明確にし、支え合うしくみをつくる」ことを目的としています。

この計画は、社会福祉法(第107条)に位置づけられた行政計画です。この中で、社会福祉の地域での推進(地域福祉)が法の目的として掲げられ(第1条、第4条)、そのための市町村地域福祉計画の策定が規定されました。横浜市では、計画の名称を「地域福祉保健計画」とし、福祉と保健の取組を一体的に推進しています。

横浜市においては、市計画、18区ごとの区計画(全域計画・地区別計画)を策定しています。区ごとに計画を策定することで、区の特性に応じた取組を進めることができます。

また、区社会福祉協議会が推進してきた「地域福祉活動計画」は、地域福祉保健計画と同じ目的をもつため、一体的に策定、推進しています。

(2) 地域福祉保健計画策定の意義

地域福祉保健計画は、地域住民と関係機関・団体等が協力して取り組む地域づくりを計画として明文化し、それぞれが連携を図りながら推進していきます。

これまで、計画の推進の中で大切にしてきたことは、「住民主体」と「協働」です。地域の状況に合わせて、より良い地域づくりを進めていくためには、そのまちに住む一人ひとりが「私たちのまち」に関心を持つこと、そして地域住民や自治会町内会をはじめとする住民組織と、地域にある様々な機関や団体、施設等が協力して地域福祉保健の推進に取り組むことが重要です。

計画の策定を通じて、地域住民と関係機関・団体等が地域ごとの現状と課題を明らかにし、より良いまちづくりに向けた目標を共有することで、同じ方向を見据えて、それぞれの役割に応じた取組を進めていくことができます。

(3) 瀬谷区地域福祉保健計画

ア 計画の対象者

瀬谷区に生活している「すべての人」を対象とします。

イ 計画の期間

平成18年度から始まった5年ごとの計画です。

ウ 第1期から第3期計画の成果と第4期計画への継続性

第1期計画から第3期計画にかけて、サロンなど様々な地域交流の場が増加し、健康づくり・生きがいづくりの活動も増えました。そして、見守り、支え合い活動も大きく前進してきました。また、区民、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザとの連携強化により、計画の推進が一体的に進められています。

第4期計画は、これまでの様々な取組の成果を生かし、引き続き推進するため、第3期計画との「継続性」を持たせ、区として充実が必要な内容について反映させています。

第1期 平成18年～22年度（5年間）

- ・見守り体制づくりを推進
- ・サロンなど、地域の交流の場が増加
- ・地区別計画の推進を支援する、地区支援チームの設置

第2期 平成23年～27年度（5年間）

- ・見守り・支え合い活動を推進
- ・健康づくり、生きがいづくりの活動が増加
- ・区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザの連携強化

第3期 平成28年～令和2年度（5年間）

- ・認知症カフェ、学習支援、こども食堂など新たな場の増加
- ・地区での健康づくりの取組の増加（ウォーキング、介護予防）
- ・障害についての理解の推進
- ・生活支援コーディネーターの配置による、関係機関との連携や地域への支援の推進

第4期

令和3年～7年度

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

健康でいきいきと
暮らせる地域づくり

誰もが活躍できる
地域づくり

継続性

コラム



歳を重ねても住み慣れたまちで自分らしく ～地域包括ケアシステムと地域福祉保健計画～

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制のことです。

「みんなでつくる みんなのしあわせ」をめざす地域福祉保健計画と、重なり合う取組がたくさんあります。

例えば、高齢者の買い物を支援する移動販売の取組では、身近な場所に気軽に立ち寄れる場所ができたことで、体を動かす機会が健康の増進につながり、さらに買い物に来た人たちとの会話が生まれ、交流や見守りの場となりました。生活が便利になった以上に、地域にうれしい変化が生まれました。

高齢者を対象にした地域包括ケアシステムの取組と世代を超えた地域の福祉向上を目指す地域福祉保健計画は他にも様々な取組でつながり合っています。



▲マークスプリングス(瀬谷北部地区)移動販売の様子

7 計画の推進

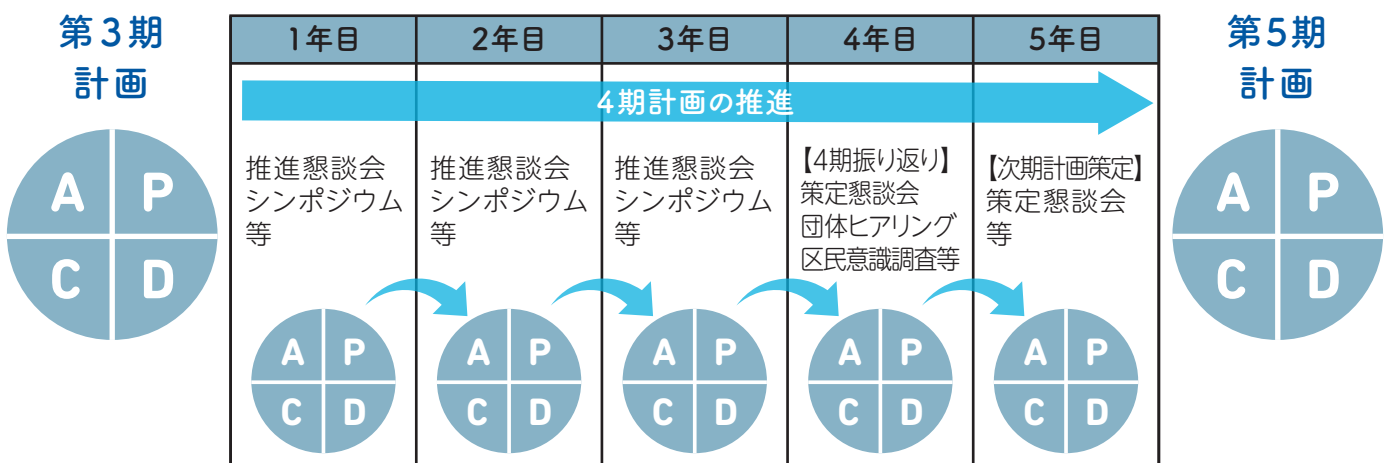
第4期瀬谷区地域福祉保健計画の策定にあたっては、地域で活動されている団体の代表者で構成される地域福祉保健計画策定懇談会を開催し、また地区においては策定に関する会議を開催し、区民と区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザとの協働で進めてきました。

計画に掲げた基本理念・基本目標の実現に向けた取組においても、策定プロセスと同様、区民のみなさんと協働で進めていきます。

(1) 5か年の瀬谷区地域福祉保健計画の進め方のイメージ

瀬谷区では、PDCAサイクル(P:計画、D:取組、C:振り返り、A:見直し/検討)をイメージしながら計画の推進をはかり、みんなで暮らしやすいまちづくりを目指していきます。

第4期計画



(2) 推進のための主な懇談会等

●全域計画推進懇談会 年2回

地域福祉保健計画・全域計画の進捗状況を報告し、意見交換を行うため、地域の活動団体の代表者を構成メンバーとする懇談会を開催します。

4年目の振り返りと5年目の策定の年には、『瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会』を立ち上げ、次期計画策定について進めます。

●地区別計画推進懇談会・研修会 年1回程度

地域福祉保健計画・地区別計画推進のための懇談会・研修会を開催します。

●地域福祉保健計画推進シンポジウム 年1回

地域福祉保健計画の取組を広く区民に周知します。

(3) 地区別計画の推進について

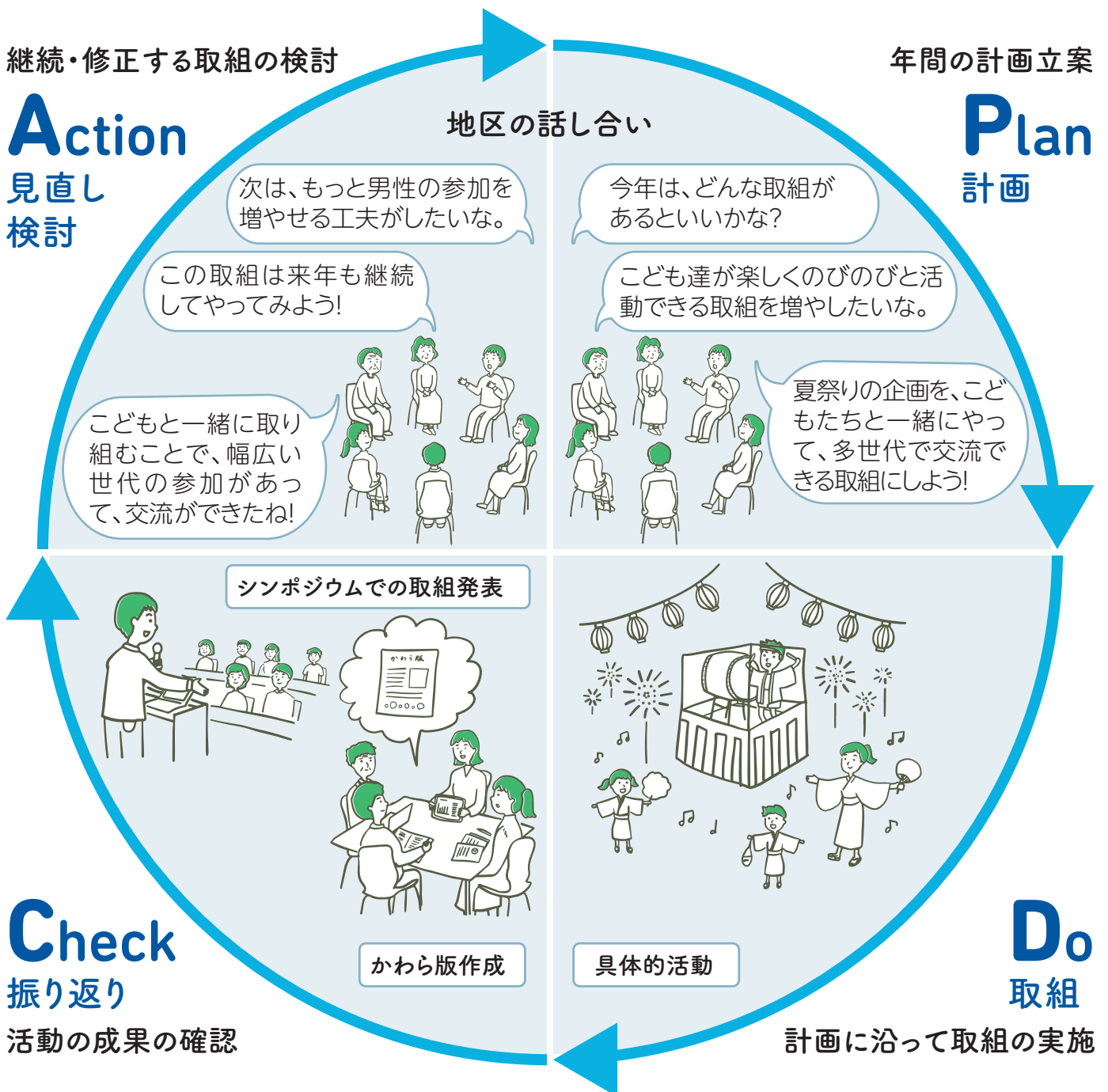
12地区連合町内会自治会ごとの計画推進母体を中心となり、基本理念・基本目標の実現に向けた取組を各地区で進めていきます。そして、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの職員で構成する地区支援チームと連携しながら、各地区の取組を進めていきます。

計画の目的や意義をみんなで話し合い、進めていくことで、その取組は基本理念・基本目標の実現に向けたより豊かなものになります。そして、その計画を発表することで取組を広め、より多くの区民のみなさんと共有でき、暮らしやすいまちづくりの実現につながっていきます。

そのためにも、計画に基づく活動の進捗状況を把握し、点検、評価などの“振り返り”を各年度で行います。振り返りを踏まえて、次の年の活動内容をあらためて確認します。

1年間の取組の成果は毎年「地区別計画かわら版」としてまとめ、シンポジウムで報告します。

また、地域福祉保健計画は5か年の計画です。4年目には振り返りを行い、それをもとに次期5か年の計画につなげていきます。



(4) 全域計画の推進について

ア 事業計画と事業の実施について (P:計画 D:取組)

地域福祉保健計画で掲げた基本理念・基本目標の実現に向け、区役所内各部署及び区社会福祉協議会、区内各地域ケアプラザは、年度ごとに立案した事業計画に基づき事業を展開していきます。

イ 振り返りと見直しについて (C:振り返り A:見直し/検討)

以下の評価方法によって年度ごとに進捗状況を把握し、PDCAサイクルで適宜取組を見直しながら計画を進めていきます。

●区役所・区社会福祉協議会・区内各地域ケアプラザによる自己評価

事業実施主体である区役所・区社会福祉協議会・区内各地域ケアプラザは、それぞれ年度ごとに事業の進捗状況を振り返り、自己評価します。

●全域計画推進懇談会への報告

区役所・区社会福祉協議会・区内各地域ケアプラザによる自己評価を、全域計画推進懇談会にて報告します。懇談会での意見は、計画進捗状況の評価の参考とします。

●区民意識調査

計画4年目に区民を対象に「区民意識調査」を実施します。

●次期計画策定

全域計画推進懇談会での意見、及び「区民意識調査」の結果、団体のヒアリング等を参考に、次期計画策定の検討へとつなげていきます。

コラム



エスディー・ zeroes

SDGsにつながるみんなの取組

すべての人が世界規模で取り組み、解決していくべき課題の目標がSDGs(持続可能な開発目標)です。「誰一人取り残さない」社会の実現のため、17の活動目標が掲げられています。

見守り支え合い活動、健康づくり、こども食堂、学習支援等、瀬谷区地域福祉保健計画にある取組が、「3 すべての人に健康と福祉を」や「11 住み続けられるまちづくりを」など、SDGsの目標の実現につながっています。



8 策定のプロセス

第4期計画策定にあたり、「区民意識調査」、地域福祉保健活動に携わっている団体への「ヒアリング」、各団体の代表を中心として構成された「第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会」を開催し、様々な意見をもとに策定を進めました。

『第3期の振り返りについて』策定懇談会でのご意見

基本目標Ⅰ 隣近所で見守り・支え合う地域づくり

成果) 障害の啓発活動や取組を通して障害理解が進んだ。
サロンや見守りグッズが充実してきた。
地域の見守りの意識が高まった。
こども食堂やこどもの居場所が増えてきた。

課題) 8050問題・引きこもりなどは、地域との接点がなく気づくことが難しい。
本当に支援が必要なこどもの情報共有が難しい。
赤ちゃんから青年以降も途切れない支援を行う。
虐待など深刻な問題に地域で気づき、すぐ動ける体制づくりを考える。 等

基本目標Ⅱ 健康・長寿をめざす地域づくり

成果) スポーツで多世代交流が進んだ。
サロンで認知症予防の啓発が進んだ。
認知症カフェ・コミュニティカフェが増えた。

課題) 特定健診の受診率が低い。
若い人向けの健康づくりの活動が少ない。
健康長寿では、高齢者だけのイメージが強いが、すべての年齢層で健康長寿にしたい。
歩けない等、活動に参加できない方へ支援を行う。 等

基本目標Ⅲ 誰もが活動に参加する地域づくり

成果) まんまるクラフトや事業所販売等を通じて障害児者との関わりが増えた。
高齢者も障害者も地域参加の意識が高まった。
施設と地域のつながりが増えた。

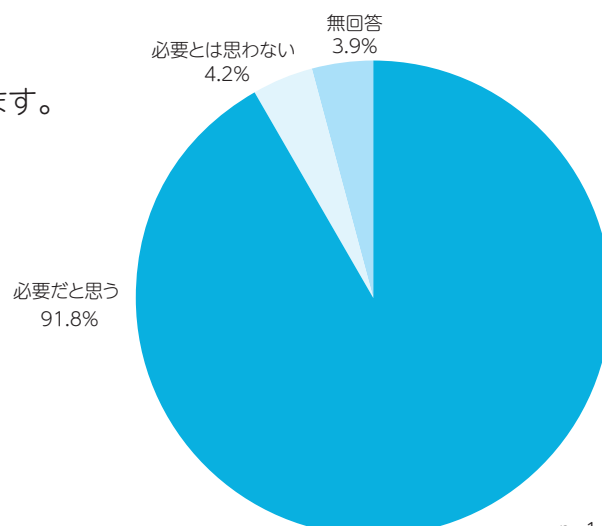
課題) リタイアした男性とのつながりができていない。
誰でも役割を持ち、活躍できるしくみづくりを考える。
若い世代の地域活動の参加が少ない。
居場所・集える場があることを周知していく。
担い手不足や高齢化が進んでいる。 等

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

団体名	ヒアリングでの意見	キーワード
障害者支援・当事者団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認め合う世の中になっているかという点、活動が活発で居心地が良い場所があるほど余計に他と分断化されているとも言える。 ・情報を聞くだけでは障害の内容はわからない。実際にふれ合って知ってもらうのがよい。 	個性の尊重
	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいうちから常に高齢の方も障害の方も一緒に参加できる環境があれば、自然と「自分達は自分のままで良い」と思ってもらえる社会になる。 	ふれあい
	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルな環境を作っていかななくてはいけない。情報の伝えかたを模索している。 	環境整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・障害理解の座学でなく、一緒に活動を体験・実施できるよう自立支援協議会とともに取り組んでいる。 ・事業所の製品を障害の人と地域の人と一緒に作る活動を実施し理解啓発している。 ・今は地域の方と関係ができ自立支援協議会の活動や精神障害のことも知ってもらえる機会が増えた。 ・障害の支援者だけでなく、今後、色々な団体、職種や立場の方と連携していきたい。 	連携
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれは地域のためになりたいと思えるような体験ができる親子の広場の必要性は高い。 	こどもの見守り
	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代交流はお互いのイベントをやっていて緩やかに触れ合える場所があるとよい。 ・子育てに関して地域の関心を高める方策を考えたい。 	ふれあい
地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から、当事者と交流できる場をつくりたいという声があがってきている。 	ふれあい
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に、防災訓練を障害のある人と一緒にやっという動きがある。 	地域の支え
	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見は高齢者に限らず、障害者の成年後見もある。基幹相談支援センターの周知も含め、関係機関との連携を深めたい。 	連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中で、サロンなど地域での取組も増えた。 ・「見守り・支え合い」という言葉が、地域に浸透してきている。 	見守り 支え合い
	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的な課題を持つ世帯に対し、生活困窮の解決につながるような支援のできるしくみづくりが必要。 	つなげる

地域のつながりを深める必要性

◇全体の91.8%が地域のつながりを必要だと感じています。
(令和元年度区民意識調査)

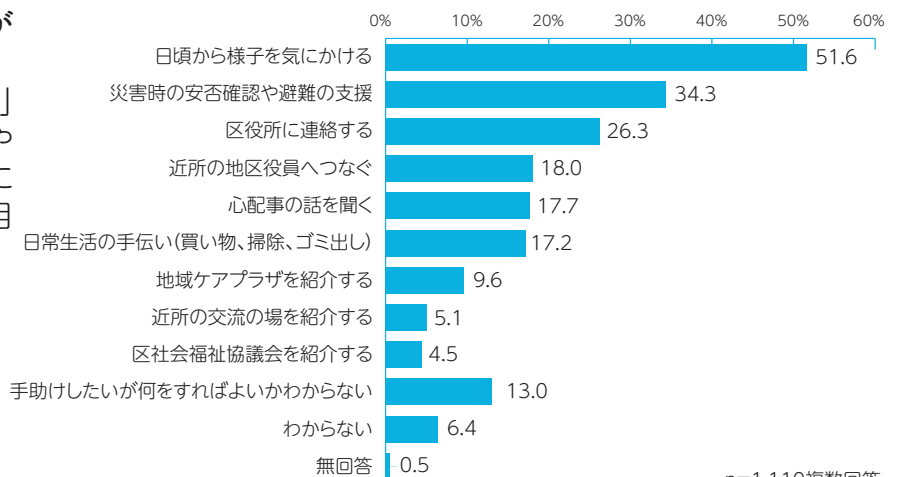


n=1,201

「第4期に向けて」策定懇談会での意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・「交通安全の取組」「日頃の備え」「福祉施設や学校と地域の関わり」など見守り・支え合いが災害時にどう活かされるのかをしっかりと考えることが大事。 ・気づくことができれば対応ができるが、“気づくことが難しい”という問題がどの目標でも増えてきているのが4期に向けての大きな課題。 ・気づきは大切なキーワードだが、言葉の入れ方を考える余地はある。 ・気づき合は大切だが、「支え合うための気づき」と考えると、「“おたがいさま”で支え合う」はどうか。 ・虐待の深刻な問題があるが、発見しにくい。地域の中で専門性と気づきの間をつなぐしくみが必要。 ・認知症の取組や子ども達をどう地域の中で見守り育てていくかが大事。 ・地域につながっていない人をどうやって地域で支えていくか。 ・中学生になると、地域の活動も率先してできる。これから大人になり見守る側にもなる。地域でも受け入れる準備体制も必要。 ・小さな地域で、顔の見える関係の中で「おたがいさま」という言葉が出ているのが良い。 ・障害のある子は支援される側だけでなく、一人ひとりできることがたくさんある。支援する側にもなれる。地域でその子のできることを一緒に考え、育ちを一緒に見て、共感しあえると良い。障害のある子も、地域に当たり前にいるという感覚を共有して話し合えたらよい。おたがいさまの気持ちが大切。 ・災害の時や介護が必要になった時、一番大切になるのは地域の支え。 ・福祉の専門家はカテゴリーで見がちだが、地域で考えるときは、「困窮者」「障害者」等ではなく、様々な人が暮らしていることを理解し、みんなで一緒にできる計画になるとよい。 ・「みんなでつくる みんなのしあわせ」が理念になっているように、「皆」を「みんな」とした方が柔らかく受け入れやすいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り 支え合い 気づき つなげる 認知症の 取組 こどもの 見守り おたがいさま 地域の支え みんな
<p>第3期 基本目標Ⅰ 隣近所で見守り・支え合う地域づくり</p>	<p>第4期 基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり</p>

「手助けを必要としている人、手助けが必要となりそうな人」にできる手助け

◇「日頃から様子を気にかける」(51.6%)、「災害時の安否確認や避難の支援」(34.3%)、「区役所に連絡する」(26.3%)が上位3項目です。
(令和元年度区民意識調査)



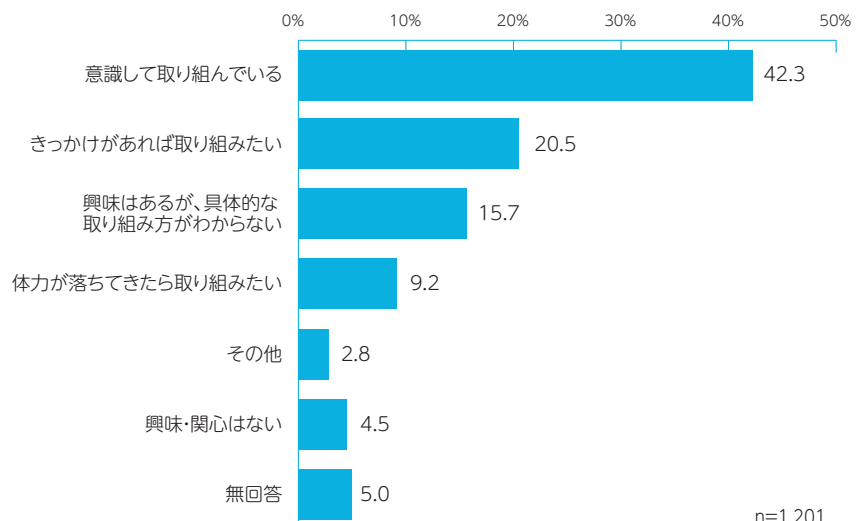
n=1,110複数回答

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

団体名	ヒアリングでの意見	キーワード
子育て支援団体	・お父さんの会社に「育児を二人で」という雰囲気を持って欲しいし、お母さんも働き方の選択が増えるなど、ワークライフバランスの常識が変わってもらえると良い。	ワークライフバランス
	・子育て広場では、親に気軽に来てもらい、疑問を持った時、相談してもらえるようにしている。	相談体制
ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ・人を集めるヒントは、ゆるく時間を区切り参加してもらうこと。 ・ボランティアは、自分自身が楽しんで参加しないと来てくれる方も楽しくない。 ・男性だけの参加日を設定して、きっかけづくりをしたらどうか。 ・現役ボランティアが認知症になった場合の対応を考えたい。 	活動に参加することで健康
障害者支援・当事者団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドヘルパーを使って外に出る等、外に向かって社会活動していくことを法人として考えたい。 ・事業所につながっていない方も含めて社会参加できるようにしていけるとよい。 ・スポーツ、ウォーキング、音楽等地域の中でできることから活動に取り組んでいきたい。 	
地域ケアプラザ	・瀬谷区は、区民の人の健康への意識が高い。	健康意識
	・成年後見の利用促進について、生活支援コーディネーターは社会福祉職と連携し、瀬谷区内の行政書士等に講座を依頼して、エンディングノートの書き方講座等を開催している。	制度促進
	・中高生や大学生でボランティアしている人や、高齢者でも子育て支援のボランティアで活躍している人もいる。ボランティアをすることで介護予防にも繋がるが、介護予防だけに限定せず、第4期計画では活動者の世代に幅を持てればよいと思う。	元気生きがい

健康づくりへの取組

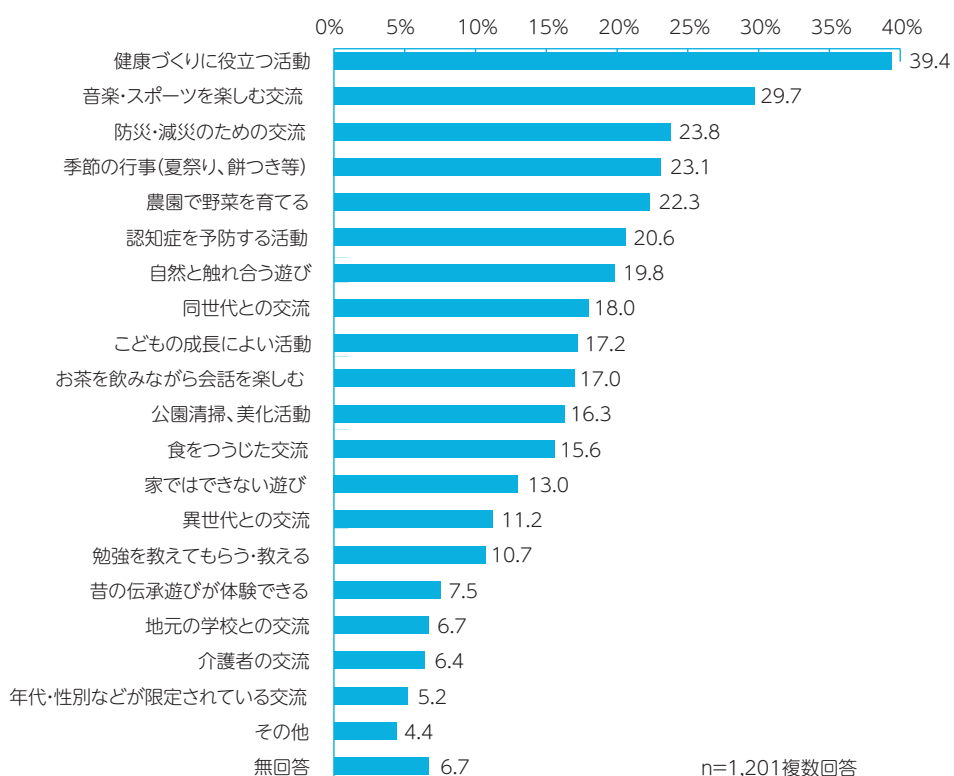
◇「意識して取り組んでいる」(42.3%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(20.5%)、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(15.7%)などの順となっています。
(令和元年度区民意識調査)



「第4期に向けて」策定懇談会での意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進のウォーキングが進んだ。障害のある方とも一緒に活動した。歩けない人の支援はどうしていくか。 ・瀬谷区民の健診受診率が低い。受診率をどうやってあげていくか。 ・健康長寿の表現は、高齢者のイメージだが、すべての年齢層での健康長寿にしたい。健康は、みんなでやることによる相互作用による健康の意味がある。 ・こどもの健康は、学校だけでなく、地域でも考えていく。 ・認知症に対する理解を深め、予防という観点で考える。 ・持病があっても、生きがいをもって生活をしてもらう。 ・元気に暮らせるまちづくりが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての人がみんなで健康 こども 認知症予防 元気 生きがい
<p>第3期 基本目標Ⅱ 健康・長寿をめざす地域づくり</p>	<p>第4期 基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり</p>

参加してみたい地域の交流

◇「健康づくりに役立つ活動」(39.4%)、「音楽・スポーツを楽しむ交流」(29.7%)、「防災・減災のための交流」(23.8%)などの順となっています。(令和元年度区民意識調査)

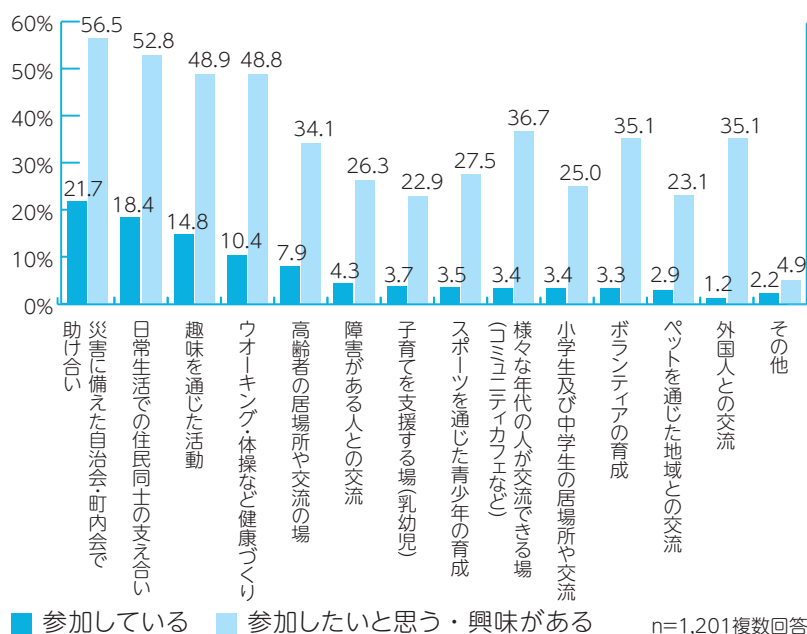


基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

団体名	ヒアリングでの意見	キーワード
ボランティア団体	・アンケート調査により年齢別の得意分野をリサーチし、若い方の興味を引く募集チラシの工夫をしたい。	色々な人が参加
	・こどもが小さい時からボランティアに参加していると、子育てが終わった後にも地域とつながりやすく次世代の育成にもつながる。 ・活動場所を気軽に利用できるように、鍵を借りるしくみなどの簡便化を図り、自主運営が促進されるとよい。 ・区内のボランティア団体でネットワークを作り、お互いの人手不足を補う”サポーター制度”があるとよい。 ・入会后1年過ぎたら若い人から会長になるしくみにして、ベテランが支えて若い人が会長をやっている。	しくみづくり
障害者支援・当事者団体	・障害のある人が社会参加するには、自分自身が前向きに外に出ていく必要がある。 ・障害のある人もお祭りに参加し、手伝いができるとうい。その際はお互いを知り理解がすることが必要。	社会活動参加
子育て支援団体	・広場スタッフは、利用者のママさんに声をかけ先輩ママになってもらっている。 ・異世代交流はお互いのイベントをやって緩やかに触れ合える場所があるとよい。 ・防災の切り口で若い人にも声をかければ関心を持ち参加するだろう。	誰もが参加
地域ケアプラザ	・新しい人が気軽に入っていけるような仕掛けづくりを地域ケアプラザがしていくことが必要。40歳～50歳代の人の特技を活かし、活躍できる場があればよい。	活躍の場
	・利用者懇談会を開催し、登録団体同士の交流ができる機会を設け、協力しあえる関係となるよう団体同士をつなげる支援をしている。	団体交流の機会
	・ここ数年、登録団体の中で福祉保健活動の意識が少しずつではあるが高まりつつある。	意識の向上
	・ボランティア養成講座終了後の継続的な支援が大切。	しくみづくり
	・地域が行う活動だけでなく、近所の商店など、企業の活動にも目を向けていかなくてはならない。	連携

瀬谷区の地域活動

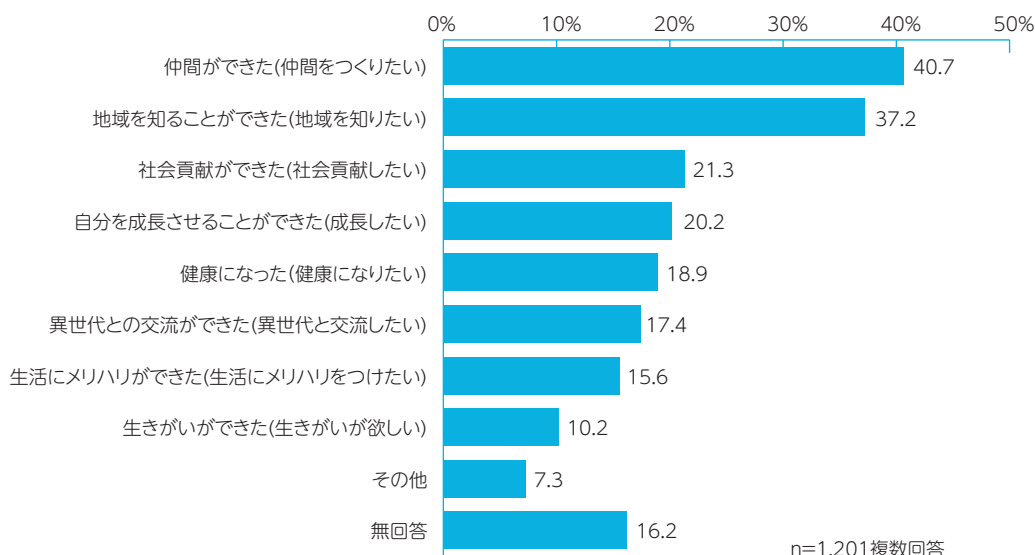
◇「参加したいと思う」と「興味がある」を合わせた地域活動への今後の参加意向は、「災害に備えた自治会・町内会で助け合い」(56.5%)、「日常生活での住民同士の支え合い」(52.8%)、「趣味を通じた活動」(48.9%)などの順となっています。(令和元年度区民意識調査)



「第4期に向けて」策定懇談会での意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・前進した面はあるが、色々な人が活動に参加する状況はまだできていない。 ・障害の人が避難訓練と一緒に参加できる取組をしている。障害者は特別な存在ではなく、ちょっとした配慮や環境を工夫すれば、できることはたくさんある。 ・リーダーや一部の人が一生懸命だが、参加する人は増えていない。 ・地域の中でいろいろな交流活動が生まれているが、担い手不足も相変わらずある。担い手として新たな人が入りにくいいため、一定のところに入れ替わる必要がある。 ・「活躍」は、現在活動をしている人は良いが、地域に向けて「活躍」というとハードルが高いかもしれない。 ・活躍に込められた思いを、本冊の中で「それぞれの立場でできることを」と説明があるので「活躍」が良いと思う。 ・地域でアクティブシニアが活躍できる役割を与えられるような雰囲気やしきみが欠けている。 ・活動づくりが大切。リタイアした人や男性も積極的に参加できる地域づくりが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な人が参加 障害があっても一緒に参加できる 担い手 活躍 役割 しくみづくり 誰もが参加
<p>第3期 基本目標Ⅲ 誰もが活動に参加する地域づくり</p>	<p>第4期 基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり</p>

地域活動に参加して良かったこと、期待すること

◇「仲間ができた(仲間をつくりたい)」(40.7%)、「地域を知ることができた(地域を知りたい)」(37.2%)、「社会貢献ができた(社会貢献したい)」(21.3%)などの順となっています。(令和元年度区民意識調査)



基本目標を実現するために大切なこと

「第4期に向けて」策定懇談会での意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・こども時代からの意識醸成は課題であり、こども達が素直に育っていく地域づくりをしていきたい。 ・各地域の中で、子育てがしやすい地域づくりをすることが大切。こどもたちにとっての「ふるさと瀬谷」がどうなっていくか。 ・こどもらしさを引き出す、のびのびと楽しんで交流できるような、こどもへの取組を広げたい。 ・活動は、使命感だけでは続かない。やっている側が楽しいと思えることが大切。 ・まだ地域とつながりのない高齢者にも、役割を作り地域活動の中で一緒に取り組んでいただき、人生の先輩として、活躍をいただく観点に立ったしくみづくりが必要。 ・「居場所」も様々ある。プレイパークやコミュニティカフェも。役割があることも居場所。 ・こども・高齢者・障害者の活動や学習支援など、居場所づくりは活動が生まれる原動力。 ・これまで居場所とは、部屋や建物として考えられてきたので、それを脱皮するという意味でも住みやすいまちが、みんなの居場所というようにしっかり記載をいただきたい。 ・「居場所」はその人が安心できる場所なので、必ずしも建物や固定空間の意味ではない。人生の居場所として、幼少期は学校、働いている時は職場、高齢になると地域ともいわれる。広い意味があることを冊子の中で説明されているのでこれで良いと思う。「居場所」のキーワードは残したい。 ・活動の申請や報告等、事務手続きが煩雑で地域の負担となっている。 ・個人情報共有の方法が課題。 ・担う人の負担を軽くする方法も合わせて計画に盛り込まなくては、頑張っている人が疲れてしまう。 ・こどもから成人までのあらゆる人の考え方を取り入れていけば、将来の計画に沿える。こどもの懇談会も進んでいる。 ・瀬谷には外国籍の方が多い。多様性を認め合う地域をどう作っていくか。マイノリティの人をどうサポートできるか ・基本目標は第3期を継続したい。こどもが話題になっているため、こどもの視点を入れ、どの目標にも切り口としてこどもが入ると良い。 ・第3期目標はまだクリアできていないので引き続き第4期へつなぐ。 ・今までの活動をやりつつ現状に合っているか考えながら活動していくことが大切。 ・「しくみづくり」「こども」等のキーワードを基本目標そのものなのか、大切な視点として入れるのか考えていけたらよい。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもを育てる地域づくり こどもへの取組 担い手活動者が楽しめる 高齢者も役割・活躍 居場所づくり しくみづくり あらゆる世代の考え 多様性を認める 「こども」の視点を入れる 第3期からの継続

第3期

基本目標を実現するために必要な大切な視点

- ①一人ひとりの個性や立場を尊重すること
- ②幅広い世代や人が参加すること
- ③必要な情報を把握、共有、発信すること
- ④連携を強め、強化すること
- ⑤様々な地域資源を開発、活用すること

第4期

基本目標を実現するために大切なこと

- ①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ②健やかにこどもが育つ環境づくり
- ③幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり
- ④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

資料編(瀬谷区の状況)

図表の見方(留意点)

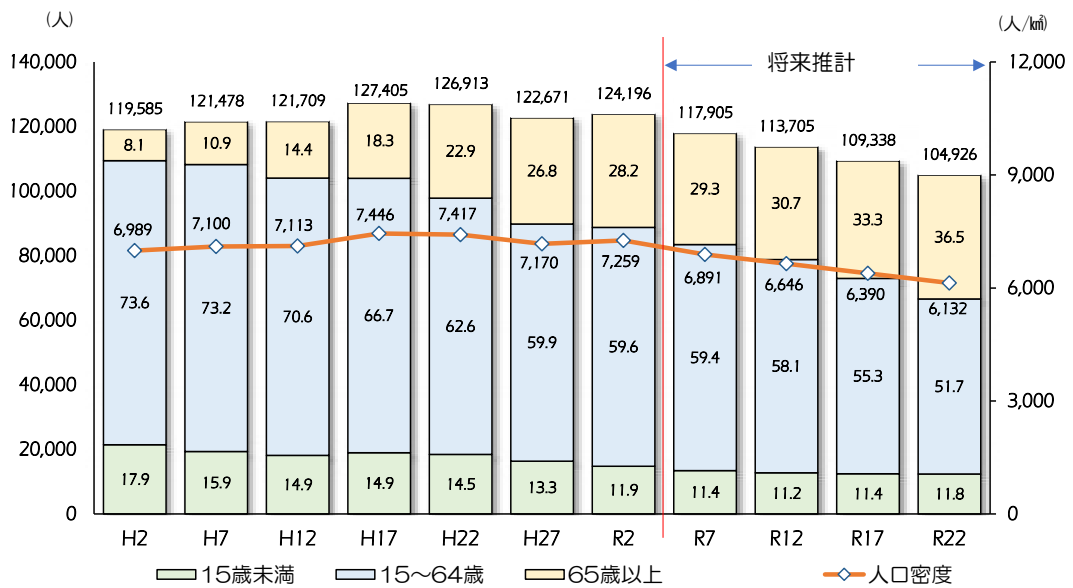
1. 図(グラフ)の中で使用されている「n=〇〇」は、その設問に対する回答者数をあらわす。
2. 回答の比率(すべて百分率(%))は、その設問の回答者数を基数(件数)として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
3. 国勢調査は平成27年が最新です。

1 瀬谷区基礎データ

(1)人口

瀬谷区の人口は令和2年1月1日現在、約12万4千人です。平成17年をピークにそれ以降減少傾向が続いています。年齢別では、65歳以上人口比率がこの20年間で約2倍に増えています。今後も人口は減少すると推計されています。

人口及び年齢3区分別人口の推移(瀬谷区)



(注:棒グラフは年齢別の人口数を示し、棒グラフ中の数値は構成比を表している)

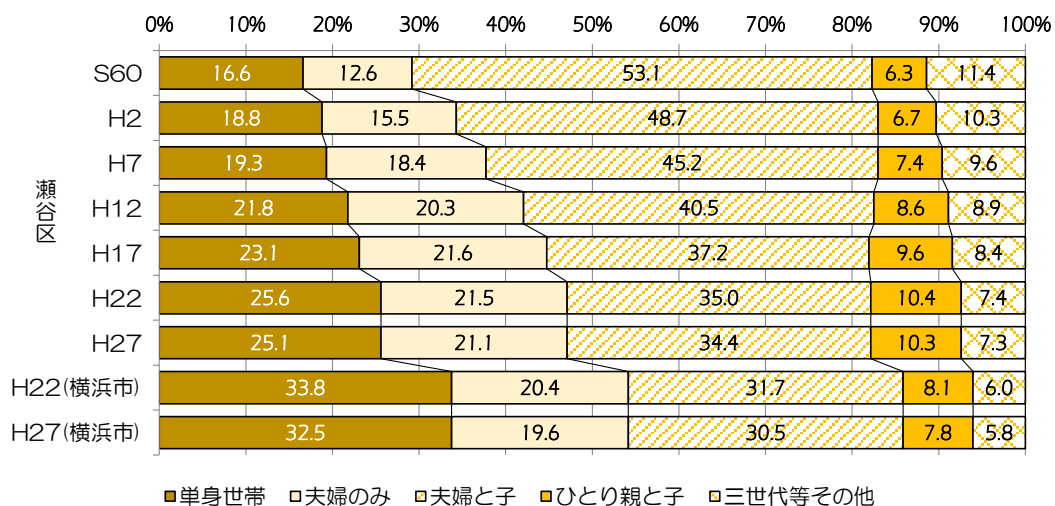
出典)国勢調査報告(各年10月1日現在) R2年の人口は速報値

R2年の年齢構成比率は推計人口(R2/1/1)、将来推計は横浜市推計

(2)世帯の構成

瀬谷区の世帯数は、令和2年1月1日現在、約5万世帯です。瀬谷区では単身世帯の割合が増加傾向にあります。市域全体の単身世帯割合は下回っています。夫婦と子世帯、ひとり親と子世帯、三世帯等その他の割合は市域全体よりも多くなっています。

家族類型別世帯数の構成割合(瀬谷区と横浜市)

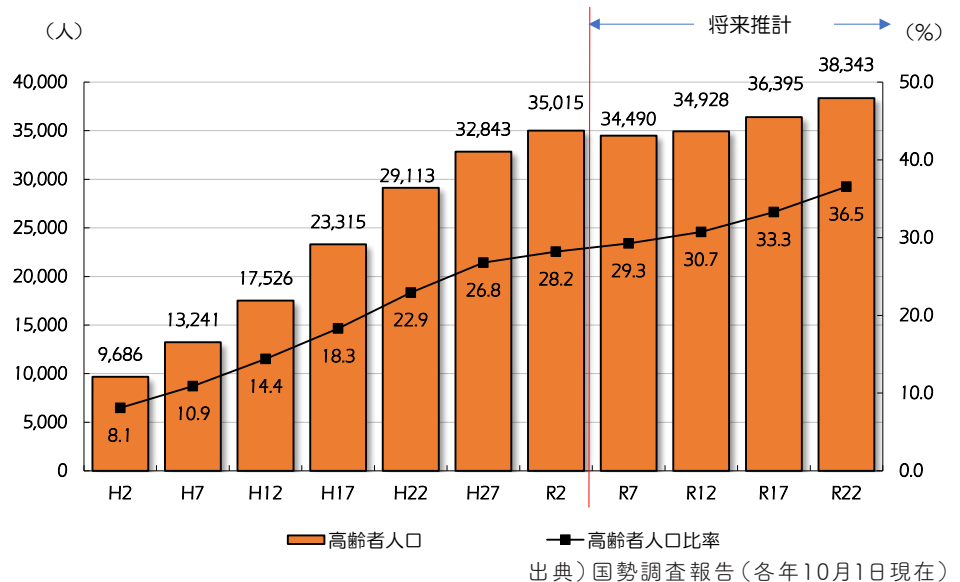


出典)国勢調査報告(各年10月1日現在)

(3) 高齢者

瀬谷区の高齢者の人口は増加傾向で、令和2年には人口比率が28.2%となっています。将来推計では高齢人口は横ばいで推移しますが、20年後には人口比率が36.5%になると推計されています。

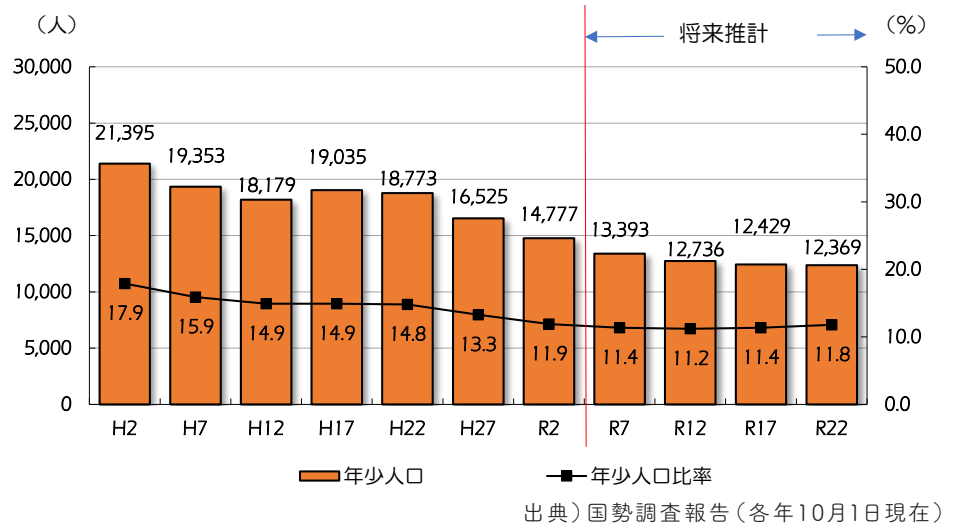
高齢者人口の推移(瀬谷区)



(4) こども・子育て

瀬谷区の年少人口(子どもの人口)は平成17年以降減少傾向で、令和2年には人口比率が11.9%となっています。将来推計では年少人口比率は横ばいで推移しますが、20年後には年少人口が約12,400人になると推計されています。

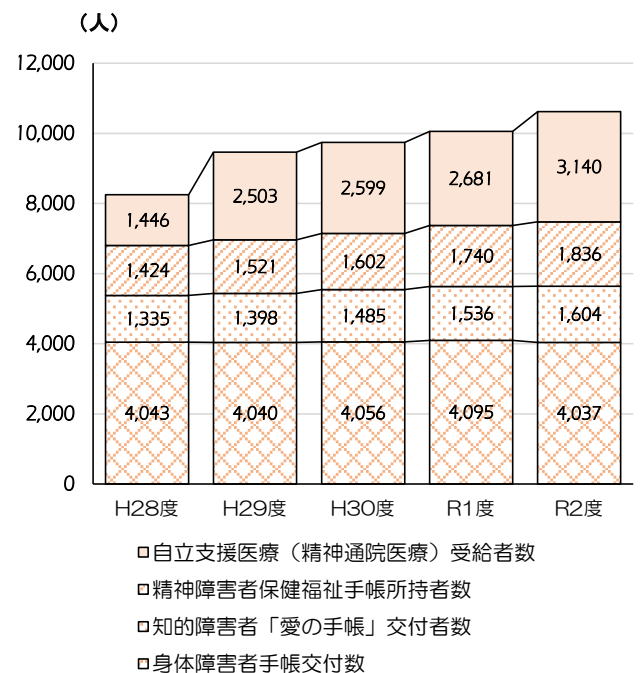
年少人口と人口比率の推移(瀬谷区)



(5) 障害児・者

瀬谷区の障害者手帳交付者・精神通院医療受給者数は約1万人です(令和元年度3月31日現在)。身体障害者と知的障害者の手帳交付率は人口当たり18区中最も高くなっています。

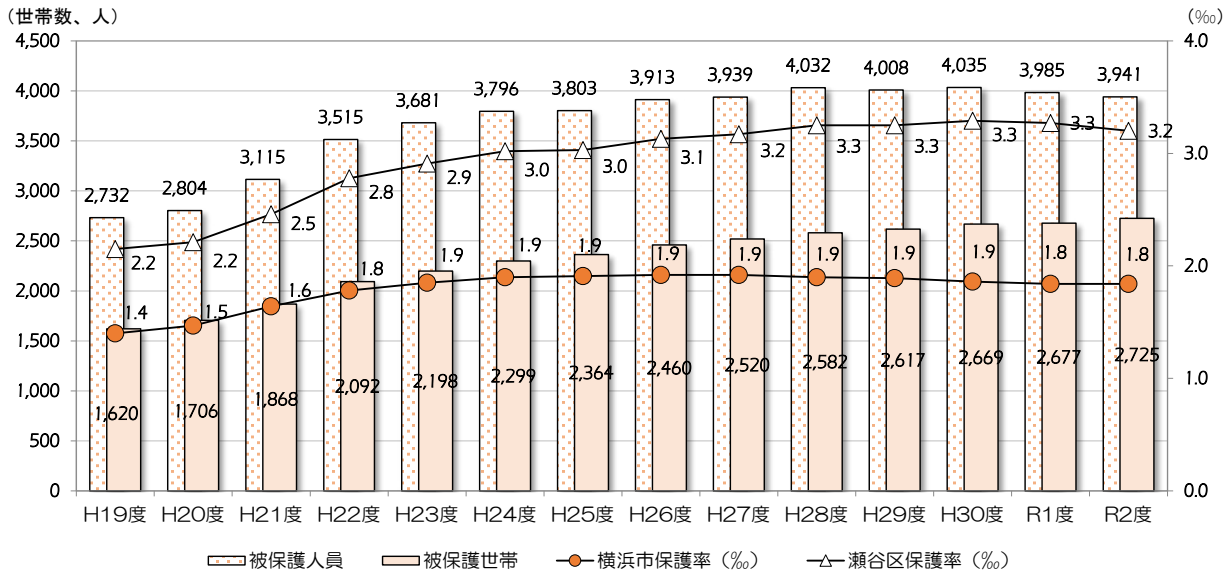
障害者手帳交付者・精神通院医療受給者数推移(瀬谷区)



(6)生活保護

生活保護件数、保護率ともに横ばい傾向ですが、市平均よりも高い水準にあります。

生活保護被保護人員・被保護世帯数の推移(瀬谷区と横浜市)

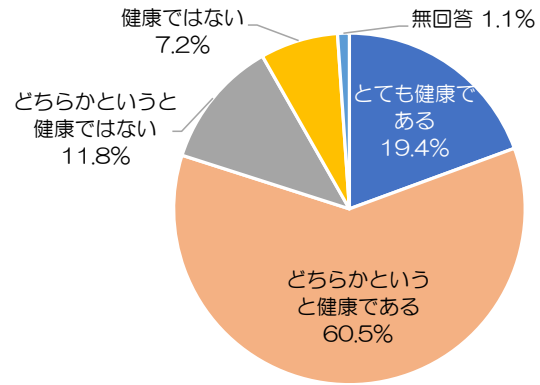


出典) 令和元年度瀬谷区福祉保健センター事業報告

(7)保健・健康

主観的健康観で、「とても健康である」「どちらかという健康である」とする人は、79.9%と約8割の人が健康だと思っています。

現在の健康状態(主観的健康観)(瀬谷区)



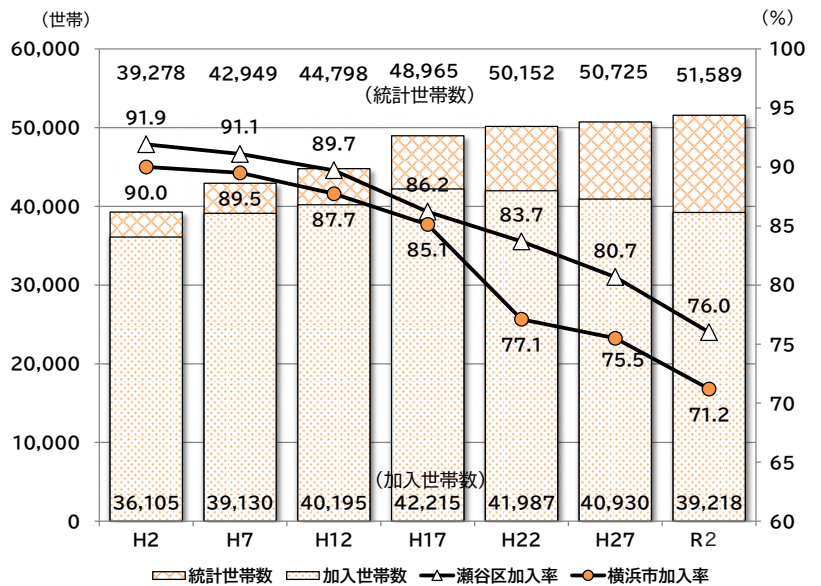
n=1,201

出典) 令和元年度瀬谷区区民意識調査

(8)地域コミュニティ活動等

自治会町内会の加入率は減少傾向ではあるものの、依然市平均を上回っています。

自治会町内会加入率の推移(瀬谷区と横浜市)



出典) 市民局資料

2 地区別比較データ

(1)人口・世帯

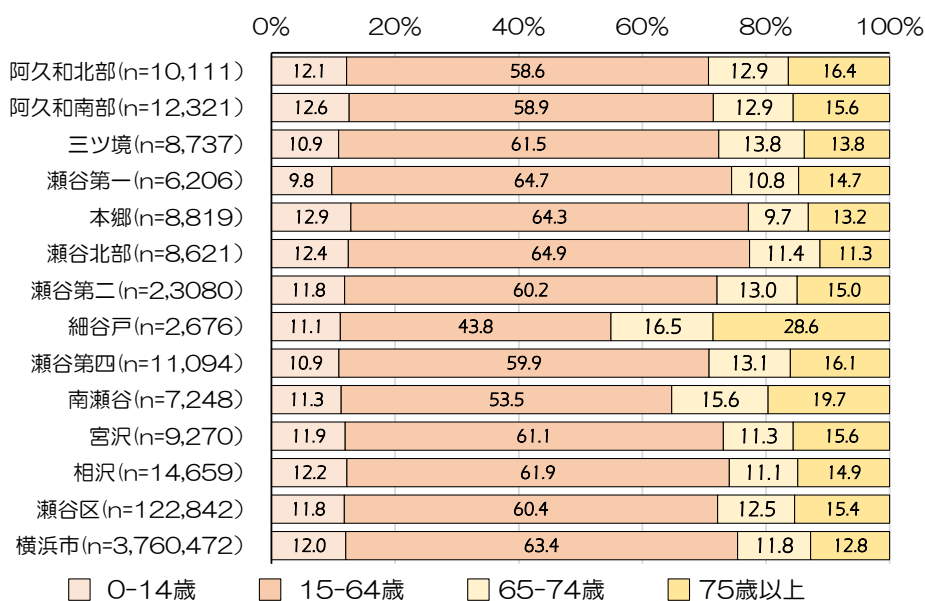
瀬谷区の人口・世帯の状況を区域全体で見ると、世帯人員は市平均よりやや高く、1haあたりの人口・世帯密度は市平均よりも少なくなっています。しかし、地区別に見ていくと、地区によってばらつきがあります。

	人口	世帯数	世帯人員	高齢化率	面積	1haあたり		人口増加率	人口
	(R2)	(R2)	(R2)	(R2)	(ha)	人口	世帯	(H27=1)	(H27)
阿久和北部	10,111	4,433	2.28	29.3	89.5	113	50	0.97	10,447
阿久和南部	12,321	5,647	2.18	28.5	239.3	51	24	0.97	12,705
三ツ境	8,737	4,250	2.06	27.6	69.6	126	61	0.98	8,875
瀬谷第一	6,206	3,157	1.97	25.6	48.2	129	65	0.99	6,296
本郷	8,819	3,910	2.26	22.8	89.8	98	44	0.99	8,892
瀬谷北部	8,621	3,860	2.23	22.7	243.7	35	16	0.99	8,675
瀬谷第二	23,080	10,527	2.19	27.9	210.0	110	50	0.98	23,517
細谷戸	2,676	1,376	1.94	45.1	255.8	10	5	0.93	2,876
瀬谷第四	11,094	5,087	2.18	29.2	136.0	82	37	0.97	11,396
南瀬谷	7,248	3,333	2.17	35.2	84.5	86	39	0.93	7,777
宮沢	9,270	4,101	2.26	26.9	120.2	77	34	0.98	9,462
相沢	14,659	6,831	2.15	26.0	124.0	118	55	1.00	14,627
瀬谷区	122,842	56,512	2.17	27.8	1,710.8	72	33	0.98	125,875
横浜市	3,760,472	1,821,311	2.06	24.6	43,498.0	86	42	1.01	3,719,589

出典)住民基本台帳(令和2年9月30日現在)等より作成

(2)年齢構成

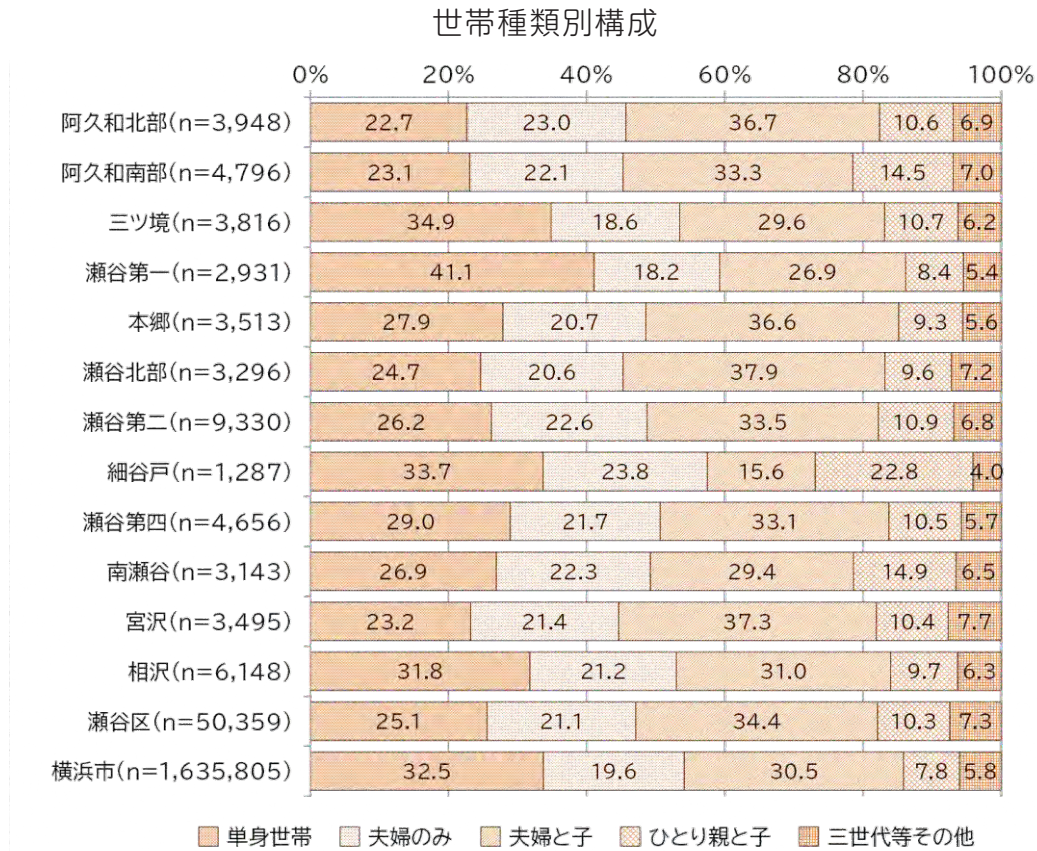
瀬谷区の年齢構成は、市平均と比べて65歳以上層が多くなっています。地区別で見ると15歳未満層が最も多いのが本郷地区、15~64歳層が最も多いのが瀬谷北部地区、65歳以上が最も多いのが細谷戸地区となっています。



出典)住民基本台帳令和2年9月30日現在

(3) 家族構成

瀬谷区の家族構成は、市平均と比べて夫婦と子世帯、ひとり親と子世帯、三世帯等その他の比率が高くなっています。一方、地区別で見ると瀬谷第一地区など、単独・夫婦のみ世帯が半数を超える地区もあり、地区ごとに特徴が出ています。

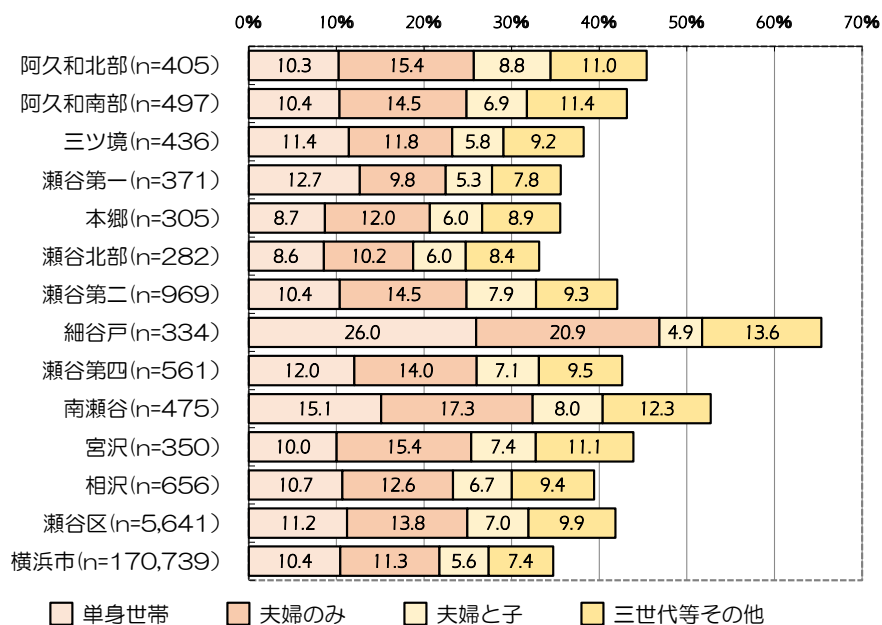


出典)平成27年国勢調査報告

(4) 高齢者のいる世帯

瀬谷区の高齢者のいる世帯割合は市平均と比べてやや高めです(41.9%)。地区別にみると細谷戸地区が最も高齢者のいる世帯割合が高く(65.4%)、逆に瀬谷北部地区が最も低い(33.2%)というように、地区ごとで特徴がみられます。

65歳以上の高齢者のいる世帯の割合



出典)平成27年国勢調査報告

第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員からのコメント

第4期計画は、策定途中でコロナ禍に見まわられて予定が大幅に遅れましたが、コロナにより新たな課題も見えてきました。本計画は子供の居場所や子育て世代への視点も多く、全年齢を視野に入れた内容になったと思います。多くの方に読んでいただき、地域活動に参加して頂きたいです。

瀬谷区医師会 太田 和代

瀬谷区内、他業種一団となつての福祉保健計画は、とても大切だと思います。歯科医師会は、瀬谷区民のお口の健康を守ることに、地域の福祉健康活動に積極的に参加させていただいております。診療室での診療のみならず、施設、ケアプラザ、集会所等での講話、実習も行っております。地域の支え合い、健康づくり、地域づくりに歯科医師全体で協力させていただきます。

瀬谷歯科医師会 大内 昇

瀬谷区薬剤師会や会員薬局として、暮らしやすいまちづくりの計画にどのような貢献が出来るかを考えてみましたが、地域にお住まいの方々が、心も体も健康にいられるための、気軽に相談できるステーションとしての役割が大きいのではと思いました。そして、各会・団体の方々と連携が非常に重要であると感じました。

瀬谷区薬剤師会 沼尾 正俊

策定懇談会の一員として第4期計画策定に加わらせていただきました事に感謝申し上げます。委員・事務局の皆様の様々なご意見を伺うことができ、大変勉強になりました。なお、小生が申し上げ、「地区別」と「全域」との関係が地区別を全域計画が一方向的に支援するのではなく、連携・協働の関係と明記いただきました。

瀬谷区連合町内会自治会絡協議会 網代 宗四郎

瀬谷北部地区は、2027年3月から9月まで国際花博(来場者1500万人)が予定されており、さらに上瀬谷米軍基地(242ha)の跡地利用も検討中で、今後この地域は、大きく変容していくことが必定です。これからも新しい町づくりをめざし、皆様の協力支援をいただき、第4期計画の精神を生かし、実現することを願っています。

瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会 奥津 敏雄

暮らしやすいまちづくりの計画は、SDGsのゴールの1つである“住み続けられるまちづくりを”につながる活動として、欠かすことのできない地域活動であると思います。地域住民が何を求めているかを掘り起こし、住民の参加が更に広がるような活動として、第4期活動を推進したいと思います。

瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会 澁谷 悦旦

困りごとを抱えた方々に対する地域の対応やボランティア活動が、とても優しく思いやりが感じられる地域が増えました。気風がとても良い方向に吹いている証左です。各地区の取り組みも、お互いさまに見守り合い・支え合う暮らしやすいまちづくりが進んでいます。素晴らしい計画です。感謝、感謝です。

瀬谷区社会福祉協議会 福田 愛一郎

第4期計画策定懇談会のメンバーに参加させて頂く中で、地域での様々な取り組みを通じて、障がいのある方とのかかわりが増え、温かくそして力強い支え合いの輪が広がっていることがとても実感できました。今後もおたがいを知り共感しあえる機会が、さらに広がるよう努めて参りたいと思います。

瀬谷区社会福祉協議会障害福祉分科会 津田 秀幸

社会福祉施設分科会を代表して、地域福祉保健計画策定に携ってきました。認知症があっても障害があっても、瀬谷の住民として、自由にのびのび暮らせるまちにするために、各分野の委員の皆様と知恵を絞ってまいります。高齢者や障害者に優しいまちは、すべての住民に優しいまちとなるでしょう。

瀬谷区社会福祉協議会社会福祉施設分科会 平本 千恵子

瀬谷について、みんなで生きる、自分のまち、ということをもっと意識しないといけないと改めて感じています。地域福祉保健計画を事務的にみてしまいがちになり、書面の見やすさ、わかりやすさに目がいきますが、より多くの人に声かけたいと思います。

瀬谷区民生委員児童委員協議会 紅林 千津子

メンバー入りしてから日が浅く、多くの資料を前にして会議についていくのがやっとでしたが、委員の皆さんが大胆さときめ細やかさの両面をもって、地域の笑顔を守っていこうと議論する様子にいつしか引き込まれました。今の瀬谷を見つめながら明るい方へ進もうと、熱心に語り合った時間は宝物となりました。

瀬谷区主任児童委員連絡会 久保 蘭 祐子

コロナ禍、自治会活動・ボランティア活動も思うようにできず、まちづくりの基礎となるコミュニケーションは、やはり、飲み会にケーションありきですね。早く普通の生活に戻って欲しいですね。このまちづくり計画の概要版を小中学校にも配布し、授業の中で取り上げて欲しいと思います。

瀬谷区青少年指導員連絡協議会 高橋 三雄

今回初めて策定懇談会に加わりましたが、地域福祉保健計画とは、「暮らしやすい地域を目指して未来にバトンをつなげていくこと」だと思いました。これまでの3期15年の積み重ねが、現在の多くの地域活動のベースになっているように、第4期計画で更に強固なものにしていきましょう。

瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会 飯沼 宏氏

素晴らしいまちづくり計画が出来ました。保健活動推進委員会として、自身の健康維持・地域の皆さんの健康寿命の延長を大きな目標として、「健康でいきいきと暮らせる地域づくり」を目指します。本計画書を、如何に地域の皆様に読んでいただき浸透させるか、工夫して参ります。

瀬谷区保健活動推進委員会 安田 智子

私達の会は市の委託事業で「食」を中心とした活動を地域の皆様にご協力をいただき行っています。一緒に考えていく計画策定の場に参加し、色々な思い、願いなどがある事を知りました。「出来る人が出来る時に、出来る事」を意識して地域づくりの一人(一員)になれたらと思いました。

瀬谷区食生活等改善推進委員会 石川 みき子

参加し実感したのは、様々な立場の方が、日頃の支援の中で感じている思いや疑問など議論を重ね、それがより良い地域づくりの推進力になっていることでした。今期「障害の有無に関係なく」「おたがいさま」の言葉が掲載されたことは、誰もが「暮らしやすいまちづくり」への大きな進歩だと、感謝申し上げます。

瀬谷区障害者支援団体 八木澤 恵奈

瀬谷区は、自然もまだまだたくさん残っていて、地域の人たちも温かい。計画策定に参加し、地域みんなでの子育てを実現できる、子育てしやすいまちだと改めて感じています。おたがいさまの関係の中で、誰もが社会参加でき、より安心して暮らせるまちなればいいなと思いつつ、委員を務めました。

瀬谷区子育て支援団体 宮本 早苗

第3期の結果を細部分析し、第4期計画に生かされている。基本目標を実現するため具体的な活動・手法を明確にされていると感じ、立派な瀬谷区地域福祉保健計画が策定された。各地区計画も基本目標に添って工夫された計画です。相沢地区の計画はコンパクトにまとまっております。

瀬谷区シニアクラブ連合会 松清 武夫

世界は新型コロナウイルスにみまわれ、人と人とのふれあいに制約を受けています。たとえ、ウイズコロナの中でも、見守り見守られながら暮らすコミュニティを維持していきたいと思つています。委員の皆様の実践に基づいた考察や知見に、いづつも心地良い刺激を頂きました。

瀬谷区社会福祉事業者 中野 しずよ

今期、計画を検討する中で、「こども」という言葉が多く語られたことに希望を感じます。子どもたちがのびのびと過ごせ、子育てがしやすいまちは「暮らしやすいまち」に通ずるのではないのでしょうか。計画が絵に描いた餅に終わらぬよう、一地域人として活動して行きたいと思つています。

瀬谷区ボランティア団体 森谷 薫

こども食堂で、お弁当を介してたくさんの会話がやりとりされている様子を、見たことがあります。子どもの遊び場プレイパークは、とても高いクオリティです。どれも瀬谷区ならではの取り組みだと思います。小学校としては、健やかにこどもが育つ環境づくりが、本計画によって充実していくとよいです。

瀬谷区小学校長会 藤田 優

区民の皆様、関係各所の皆様には、日頃から学校教育に対するご理解とご協力をいただいておりますこと、区中学校長会を代表して御礼申し上げます。だれもが、安心して、豊かに暮らせるまちづくりを目指して、本計画が持続可能な取組みとなりますよう、学校と地域社会のつながりを一層深めてまいります。

瀬谷区中学校長会 村上 直幸

単語等細部まで、全力で検討したみんなの成果物です。1年以上に渡る新型コロナウイルスの感染予防対策の自粛から、今や人との触れ合いに委縮されている方もいるかもしれません。是非、暮らしやすいまちづくりのために、地区別計画を実践し、みんなしあわせな瀬谷区をみんなで作っていきましょう!

瀬谷福祉保健センター 高野 つる代

第4期計画はコロナ禍中での作成となりましたが、各地区において、また区レベルにおいて、熱心な議論を重ねてまとめ上げられたことに敬意を表します。これまでの15年の歴史の先にこの第4期計画を指針として取組を発展させて、「暮らしやすいまちづくり」を更に進めてまいりましょう。

瀬谷福祉保健センター 伊藤 ゆかり

コラム



「新型コロナ」に負けない!!瀬谷区の地域活動

策定懇談会で計画を検討する中で、「コロナ禍のマイナス面もあるけれど、変わらない大切なことに気づけた」とのご意見もたくさんありました。感染症に負けず、できることから地域活動を進めていきましょう。

おたがいさまで支え合う

- ・コロナ禍で一人暮らし高齢者や虐待等の問題が、ますます把握しにくくなっている。地域の見守りがより一層大切。
- ・災害発生時の対応についての取り組みを、進めていかななくてはならない。

健康でいきいきと暮らせる

- ・コロナを過度に恐れると、他の問題に気づきにくくなる。正しく恐れ、自己を守り、他者を守るという原則で地域活動を継続したい。
- ・正しい生活習慣でコロナに振り回されず地域の問題に目配りしたい。

誰もが活躍できる

- ・イベントを屋外に変更、分散して開催、食事会を配食に切替える等、工夫しながらできる方法で活動を続けたい。
- ・若い人はインターネット等を使って、生活に工夫ができるが、それが苦手な人にも地域でサポートできる、つながりづくりをしたい。

第4期計画へのメッセージ

瀬谷区の地域福祉保健計画は、第1期から地区別計画を策定するなど全市的にも先進的な取組をしてきました。地区別計画の推進母体のあり方や地区支援チームの体制などは、全市の模範ともなるものです。この第4期計画は、第3期からの継続を重視しています。瀬谷区の地域福祉保健の取組が成熟していることを示しています。

まさに「暮らしやすいまちづくりの計画」として、自治会、地区社協など地域の諸団体や住民、区役所、区社協、地域ケアプラザなど関係当事者が連携して、瀬谷区の生活の基盤を築いていく基本となる計画です。いわゆる「マイノリティ」といわれる障がいをお持ちの方々、外国籍の方々などへの配慮が随所に見られ、また子育て支援や若い人たちへの目配りも増えてきているように思います。

コロナ禍の影響は、まだしばらく続きそうです。この計画の基本精神をみんなで共有し、地域社会のまなざしをコロナで困っているの方々にも十分注ぎ、この大災厄を乗り切ってまいりましょう。

この計画をもとに、これまで活動してきてくださった方々とともに、さらに輪を広げて、さまざまな区民が普段着で地域福祉保健の活動に加わってくださるような素敵な地域コミュニティができていくといいですね。

学識経験者 法政大学 法学部教授 名和田 是彦



4期計画作りの過程は、これまで誰も経験したことがない新型コロナウイルス蔓延に見舞われ、人々と対面で繋がりを続けてきたすべての地域活動は、一時期完全に停止。その中で、近隣でお互いに声を掛け合い、笑顔で過ごす何気ない時間がどれほど大切なことかを改めて共有しました。その経験を経て、ここに計画がまとまりました。地区別計画では、高齢者への支援と共に、次世代を担う子ども達へ暖かい視線が注がれ、多くの地区の推進項目になっています。また、全世帯向け福祉アンケートを実施した地区では、生活上の困りごとを共有し、それを解決する新たな活動が動き出しています。一方、配食サービスが行き詰った地区では、地区をまたいで隣接の町と協働で新たな団体を立ち上げ活動を再開。どの活動も、その地域で暮らす人達だからこそその力強さを感じます。瀬谷区計画の愛称は『暮らしやすいまちづくりの計画』です。計画に基づく地区の取り組みは16年目に入り、コロナの経験もバネにその方向性は明確になってきたと思います。日常の暮らしの中で気になることに目を向け、話し合い、力を合わせて取組みを続ける、その過程こそが『みんなで作るみんなのしあわせ(瀬谷区基本理念)』への道と言えるでしょう。

学識経験者 福祉と保健の生活課題を考える会代表 岡田 朋子

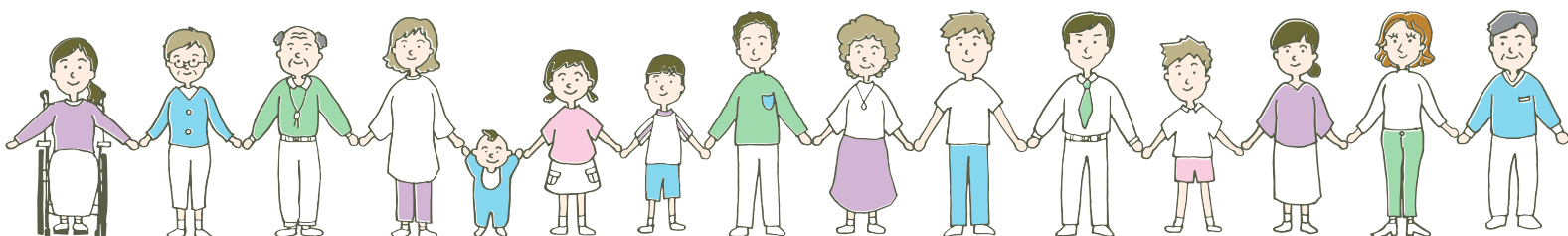


第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員名簿

団体名	氏名（敬称略）
学識経験者	名和田 是彦
	岡田 朋子
瀬谷区医師会	太田 和代
瀬谷区歯科医師会	大内 昇
瀬谷区薬剤師会	(令和元・2年度) 石田 七瀬
	(令和3年度) 沼尾 正俊
瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会	網代 宗四郎
	(令和元・2年度) 諸橋 政治
	奥津 敏雄
	(令和3年度) 澁谷 悦旦
瀬谷区社会福祉協議会	福田 愛一郎
瀬谷区社会福祉協議会障害福祉分科会	津田 秀幸
瀬谷区社会福祉協議会社会福祉施設分科会	平本 千恵子
瀬谷区民生委員児童委員協議会	紅林 千津子
瀬谷区主任児童委員連絡会	久保蘭 祐子
瀬谷区青少年指導員連絡協議会	高橋 三雄
瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会	飯沼 宏氏
瀬谷区保健活動推進委員会	安田 智子
瀬谷区食生活等改善推進委員会	石川 みき子
瀬谷区障害者支援団体	八木澤 恵奈
瀬谷区子育て支援団体	宮本 早苗
瀬谷区シニアクラブ連合会	(令和元・2年度) 笹生 登
	(令和3年度) 松清 武夫
瀬谷区社会福祉事業者	中野 しずよ
瀬谷区ボランティア団体	森谷 薫
瀬谷区小学校長会	(令和元・2年度) 倉岡 ナオミ
	(令和3年度) 藤田 優
瀬谷区中学校長会	(令和元年度) 山川 伸二
	(令和2年度) 相原 裕
	(令和3年度) 村上 直幸
瀬谷福祉保健センター	(令和元年度) 五十嵐 吉光
	(令和2・3年度) 高野 つる代
	(令和元・2年度) 藤澤 智明
	(令和3年度) 伊藤 ゆかり



瀬谷区地域福祉保健計画ロゴマーク



発行年月: 令和3年12月

発行: 横浜市瀬谷区役所福祉保健課
横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地
電話 045(367)5743
FAX 045(365)5718
横浜市瀬谷区社会福祉協議会
横浜市瀬谷区二ツ橋町469
せやまる・ふれあい館2階
電話 045(361)2117

二ツ橋地域ケアプラザ	瀬谷区二ツ橋町83-4
阿久和地域ケアプラザ	瀬谷区阿久和南2-9-2
中屋敷地域ケアプラザ	瀬谷区中屋敷2-18-6
下瀬谷地域ケアプラザ	瀬谷区下瀬谷2-44-6
二ツ橋第二地域ケアプラザ	瀬谷区二ツ橋町469 せやまる・ふれあい館1階